

研究グループ交換報告書

2006～2007

目 次

日本とイギリスに友情の「絆」を

R.I.D.2650 2006～2007年度ガバナー 平井 義久・・・01

G.S.E.プログラムのゆくえ

R.I.D.2650 2006～2007年度G.S.E.委員長, 派遣団長 山本 和秀・・・02-03

イギリス派遣報告書

木村美保子・・・04-10

塚本 淑未・・・11-17

苗村由香里・・・18-22

受入報告書

八日市南ロータリークラブ・・・23-31

舞鶴東ロータリークラブ・・・32-45

王寺ロータリークラブ・・・46-56

福井あじさいロータリークラブ・・・57-63

京都モーニングロータリークラブ・・・64-75

R.I.D.2650研究グループ交換プログラム実施年表・・・76-77

R.I.D.2650地区G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄・・・78-82

2006～2007年度R.I.D.2650G.S.E.委員会名簿・・・83

日本とイギリスに友情の「絆」を

●R.I.D.2650

2006～2007年度ガバナー

京都洛中ロータリークラブ

平井 義久



G.S.E.はロータリー財団の国際交流プログラムの一つで、異なる国の2つのロータリー地区間で、ロータリアンでない事業および専門職務に携わる優秀な人物をお互いに交換し、4週間から6週間を掛けてホスト国に滞在し、各種施設、経済および生活様式について学び、自己啓発と共に国際間の理解と親善を深めることを目的としたものです。

当地区は、前回は2年間掛けて交換して来ましたが、今回は元に返って1年で派遣と受け入れを行う事になりました。

本年度、2650地区のG.S.E.派遣団は、5月28日に選考試験を行い、引き続き結団式を行い、3名の若き女性のチームが、2006年9月19日から10月19日まで、イギリスの中南部にありますR.I.D.1200に派遣されました。今回は、山本和秀G.S.E.委員長が自ら団長となり同行いたしました。歴史あるイギリスの文化、教育、経済に接し、勉強ができました事は、団員にとりましては何にも変えがたい貴重な経験であったと思います。

受け入れ事業は、チームリーダーのスチュワート・カースリー氏以下5名の素晴らしいメンバーが、2007年3月25日から4月22日まで当地区を訪問されました。

八日市南RC、舞鶴東RC、王寺RC、福井あじさいRC、京都モーニングRCの5つのクラブの素晴らしい受け入れスケジュールと歓待ぶりは、メンバーも大満足の様でした。

このような国際親善活動を通じて日本とイギリスに友情の「絆」を固く結び得たことは、G.S.E.の持つ意義と素晴らしさを改めて教えられた事と共に、精一杯ホストを努めて頂いた5つのロータリークラブの皆様と共に、山本和秀G.S.E.地区委員長の他、委員の皆様にも深甚なる敬意と感謝を表します。

G.S.E.プログラムのゆくえ

●R.I.D.2650

2006～2007年度 G.S.E.委員長、派遣団長

京都山城ロータリークラブ

山本 和秀



G.S.E.プログラムはロータリー財団の教育的プログラムの1つです。

2国のロータリー地区がロータリアンでない4～6人のチームメンバー、及びロータリアンの1名のチームリーダーからなる専門職種の研究グループをお互いに派遣し、受け入れあいます。

G.S.E.プログラムでは、専門職務の浅い事業人または職業人が異文化に触れ職業上の体験が出来ます。

さて、本年度はR.I.D.1200地区（イギリス南部）と交換しました。

派遣は2006年9月19日から同年10月19日、受入は2007年3月25日から同年4月22日の期間でした。

派遣のチームメンバーは木村美穂子（湖南R.C.推薦）、塚本淑美（福井北R.C.推薦）、苗村由香里（湖南R.C.推薦）の3名とチームリーダーの私、山本和秀（京都山城R.C.所属）という構成でした。受入のチームメンバーはRichard Kelvey, Thomas Case, Luci Hortop, Emma Danceの4名とチームリーダーのStewart Cursley (Wells R.C.所属) という構成です。

チームリーダーとして訪英した後、G.S.E.チームメンバーがどのようなロータリー地区に行くことが職業上の向上につながるのだろうか、という疑問が私には残りました。即ち、日本は職業、職種の観点から世界的にトップレベルに達している部分が多いようにも思います。そうすると、少なくとも発展途上国とはこのプログラムを組まないほうが良いかもしれません。しかし、実際は多くのロータリー地区がそのような考えに立たずにG.S.E.プログラムを組んでいます。問題は派遣チームメンバーが自分の職業上の研究対象把握とそれを現地に行ってどのように感じ・理解し・解決するヒントを得るかというメンバー自身のとらえ方でしょうか。また、当地区委員会ではR.I.のルールに則り派遣までに10数回程度のオリエンテーションを行っています。その時に職業上の問題点などを含むG.S.E.プログラム参加の動機、目的意識を参加者に充分考えさせなければならないでしょう。

受入における問題もあります。かつて、G.S.E.プログラムを教育上のプログラムとしてとらえずフレンドシップとして考えておられたクラブがあったことを耳にしております。

G.S.E.プログラムの制度・趣旨を当委員会がはじめから考え直し、全会員に御理解していただくことが当委員会の重要且つ急務な委員会活動の一つであろうと考えます。

最後に、例年受け入れチームの日本での滞在記録を本報告書に掲載しております。ところが、彼らが在日しているときには1ヶ月以内に送る旨の約束をしていたのですが、その後何度お願いしても全く連絡をしてくれません。滞在記録を要求することはR.I.のルールとしてはく強制できるものではなく待つしか方法がありません。今後、もし先方から全員の文が届きましたら何らかの形で皆様に御案内させていただきます。

研究グループ交換報告書

湖南ロータリークラブ推薦

木村 美保子

はじめに

いつか海外で生活してみたい、留学できたらいいなと、小さい頃から海外に憧れていました。

そして社会人になり、職務を日々の忙しさの中で全うするにあたり、そのような海外での生活や留学などの機会を逃し今まで来たような気がします。

時間は確実に過ぎ、気づいたら看護師という職業に就いて10年が経っていました。

もちろん、看護師という職業を選んで本当によかったと思っていますが、今回、自分の中でこの10年目を節目の年として、何か視野を広げられるようなことができないかな、と考えていた時でもありました。そんな時に、この GSE の話を伺い、推薦していただき、メンバーの一員として1200地区での GSE 研修に参加できる素晴らしい機会に恵まれただけでなく、たくさんの貴重な体験をも得ることができました。その素晴らしい機会 wonderful opportunity をいくつか報告させていただきます。

Wonderful opportunity 1 : 美しさ



Portland からの風景

1200地区はイギリスの西南部にあります。のどかな風景をたくさん目にしました。車での移動が殆どだったのですが、車内から、羊や馬、牛を日常的に見られるのです。(羊ちゃんが時々道路に出たりして少々危険らしいですが)そしてなんと素晴らしいパノラマビュー。イギリスに行ってみてまず思ったことは、緑が多いこと。緑は人の心を癒します。イギリスにはナショナルトラストという、歴史的建築物の保護を目的とし、美しい自然や景観を永久に守るためにその所有者となって管理をしている環境保全団体があります。その管理

しているナショナルトラストの施設をいくつか訪問しましたが、本当に自然、風景、史跡、建物すべてが美しく、うっとりしてしまう程でした。

<http://www.aflo.com/nationaltrust>

UK のナショナルトラストの HP

Wonderful opportunity 2 : VOCATIONAL VISIT

医療機関は、どの国にもあるでしょう。その点、私はこの VOCATIONAL VISIT には恵まれていたと思います。中でも印象的だった2つの病院は①YEOVIL の Women's Hospital と②TAUNTON の Musgrove Park Hospital です。共に NHS (National Health Service : 国民健康サービス) の機関で、イギリスの医療制度はこの NHS により、国の保険が適応され基本的に無料でサービスを受ける事ができます。

- ① ここは名前の通り、女性のための病院です。産科・婦人科。婦人科の診察室では設備もさることながらカーテンや機械類の位置などの環境整備が行き届いていました。それは、プライバシーの保護にもつながります。特に婦人科はこの点が重要だと思います。

手術室でも十分な広さで行き届いた設備に圧巻。物品庫は整列されてとても働きやすさを感じました。(私の職場のスタッフにもみせてあげたかったです!!!)



Operation room



Ope 準備室

- ② ここではマタニティ unit について。

まず、分娩室が広い！すべて LDR (Labor(陣痛) Delivery(分娩) Recovery(回復)) システムの部屋が9つもあります。LDR システムは、すべて同じ部屋の中で過ごそうというのが目的です。そこで、家族とともに分娩をします。それには LDR bed という陣痛ベッドが分娩台となるベッドが必要なのですが、それに加え、Water Delivery 用の Pool も設置されています。部屋の中は家具やテレビやソファなどをおいてできるだけ普段の部屋と同じようにしています。この部屋では、立位での分娩を見学させていただきました。イギリスは高い確率でフリースタイルの分娩様式や水中分娩をとっています。



L.D.R room



Birth Ball 使用説明書

どの病院の L D R room に必ずといってよいほどもあるものの・・・それはバランスボールならぬ「バースボール」。壁にはバースボールのポーズの説明を描いたポスターが貼られて

おり、実際に、分娩、出産に臨む妊婦さんが使われるのですが、これを使用する事により、陣痛を少しでも逃し、お産がスムーズに進むように取り入れているのだそうです。日本でも助産院などで使用していますが、より安全、安楽に出産していただくために今後、もっと深くバースボールについて学び、私の病院でも是非取り入れていきたいと思いました。

その他に日本との違いとして、自宅での出産が多い事。近年ますます多くなっているそうです。そして助産師をメインに分娩を行っている事。これだけでもイギリスの医療レベルが高いといえます。そして、何より夫のサポートが十分に得られている事（さすが紳士の国だけあり、とても妊婦さんにとって心強い存在です）。などを感じました。

Wonderful opportunity 3 : Jersey での地区大会&Ball

この地区大会に、私達GSEチームも参加することになり、パワーポイントを利用し各自の自己紹介と私達のエリア紹介を発表させていただきました。今回の研修にあたり、パワーポイントを初めて作成したのですが、色々と試行錯誤しながらみんなで力をあわせて素晴らしいものができました。今まで、人前でこのような発表をする機会が少なく、しかも英語での発表だったため、とても緊張しましたが、1200地区の方々のおかげで見守りもあり無事に発表を終えることができました。ただ、私の語学力はまだなので、英語にもっと強くなることが今後の課題です。

発表を終えた日の夜は Banquet & Ball Dancing。Ball とは、盛大な舞踏会、ダンスパーティの事で、みなさんフォーマルな衣装で参加されていました。みなさんダンスがとても上手で Big Band の演奏も素晴らしくとても盛大な盛り上がりでした。まるで映画のようだね。と思っていると「Shall we dance?」訪問した地区のホストの方からお誘いが。初めてで戸惑う私に上手くリードしてもらいながら、ダンスを楽しむことが出来ました。ダンスなんて、踊ったことないわ、恥ずかしい……。と思ってお誘いを断っていたら心から楽しむことはできなかったと思います。これは日本人の良くないところ（私個人の問題?）。楽しむということに長けているな、と思いました。みなさんの笑顔がとても素敵でした。

Wonderful opportunity 4 : 歴史の街、Bath



最後の訪問先、バースでは、かつて保養地として繁栄し、英語の Bath（お風呂）の語源となった街で、温泉地として長い歴史があります。8週間前にオープンしたばかりの BATH SPA を見学させていただいたのですが、ガラス張りの4階建ての建物に、温度の異なった何種類もの温泉や、屋外温水プールの他、ヨガやピラティス、リラック

スルームなどを完備している近代的な施設でした。

THERMAE BATH SPA

そして、その SPA のすぐ近くにバース寺院、ローマ浴場跡があり、華やかさと歴史的遺産がもつ厳かさが混在する興味深い街です。ローマ浴場跡は世界遺産で、言わずと知れた Bath 随一の観光名所です。博物館には各国語版のある音声ガイドがあるので、十分に理解でき、内容もとても興味深く、時間を忘れてしまうほどでした。そのすぐ上にあるポンプ・ルームではカフェになっており、温泉を飲むことも出来ます。予想はしていたのですが、鉄分が多いのでとても美味しいとはいえません。でも健康のために思っで一気飲み！現在は 5 P で味わうことができます。

18 世紀のジョージアン形式と呼ばれる当時のテラスハウスの建つ町並みはとても素晴らしく、なかでもロイヤル・クレセントというタウンハウスは半月に弧を描いたような曲線をもった建物で、全長 180m もあり、そのカーブの美しさは見応えがありました。建物の前には美しい庭園が広がり、本当に見事でした。現在も約 30 世帯が住んでいます。この庭園で Bath 市の市長さんに



偶然お会いしたのですが、ここのハウスはとても値段が

ロイヤル・クレセント

高く、あのジョニー・デップも購入することが出来な

ったとの事。彼でも買えないなんて、一体幾らなんだろう……。 (ちらりと聞いたところによると、約 200 億円！らしいです。ホントかな？)

このタウンハウスの 1 番地は博物館、一部はホテルとして使われています。ちなみに 1 部屋 £135 (約 27,000 円)。この 1 番地は建築当初の貴族の邸宅に修復再現されており、一般に公開されていますが、一部屋ずつにガイドの方がいるという親切ぶりです。インテリアや地下にあるキッチン意外と広く、食器や調理器具、銅鍋などがずらりと並んでいて、これらを見るだけでも食文化の違いがわかります。

Wonderful opportunity 5 : 食文化

イギリスの食べ物といえば！なんでしょう？今の日本では大抵の国の食事をすることができますが、イギリス料理屋さんってあまりみかけないし、ピンとくるものがないのです。イギリス留学経験のある知人から「期待をしてはいけない」とコメント。不安を残しつつ到着翌日の朝、出てきたものはスモークサーモン、チーズ、シリアル、トースト、デザート……。朝から？そして高い確率でジャガイモが出てきます。おそらくこれが主食だと思います。茹でたり揚げたり焼いたり手を変え (品は残念ながら変わりませんが) 出てくるのですが、イモ類を食べると私はすぐにお腹が張るので苦痛でした。量がとにかく多いで

す。よく食べ飲み、そして、食べるのが早い。それ故か、肥満の方が多い。甘いものも大量にぺろりと平らげるのできつと過糖も原因なのでしょう。自然や風土も素晴らしい故、オーガニックな食物も多いですし、健康維持、増進、または DIET のため？ Kcal・Fat オフの Food もたくさん出ています。ミルクの中にも Skim ミルク、Semi Skim ミルクまでもあり、健康オタク傾向にある私には宝物のようでした。イギリスに限らず、日本でも飽食の時代、今後もっと食事には気を使っていかななくてはならないと思います。

正直に、食事はかなりヘビーで胃がとても疲れましたが、果物とチーズはとても美味しかったです。果物は甘く、グレープフルーツも砂糖なしで十分食べることができます。それに野生のブルーベリーも絶品です。酪農もさかんなため、チーズ類もとても美味しく、ワインによく合います♪。これらに関しては、私的には大満足でした。

飲み物といえば English Tea。私はどちらかというとコーヒーを好んで飲みますが、イギリスの紅茶はとても美味しいのです。硬水と紅茶は合うのだそうです。イギリスの水は硬水で、ミルクもとってもクリーミーで美味しく、5段階くらいグレードがあるそうです。数ある紅茶のなかでも私は Lady Gray という種類の紅茶が気に入りました。さわやかな柑橘系の、香りのよい上品な味です。お手ごろ価格で購入できます。

紅茶は After meal、Afternoon Tea 等でいただきますが、食事中は赤でも、白でも、ワインを飲む方が多いです。お水代わり？と思える程よく飲まれていました。私も、多少飲みすぎても殆ど翌日に残りませんでした。添加物が少なく、美味しいのだそうです。何件かホスト先でも自家製のワインを作っていました。

そんなこんなで私も1ヶ月で約3.5*の貯金をしました。太るのは簡単、やせるのは困難・・・。

Wonderful opportunity 6 : HOST FAMILY とのかかわり

今回受け入れていただいたのは9つのホストクラブでした。移動を含め各地区2～3日の滞在という強行スケジュール。ホストファミリーの方とも、少しずつ、慣れてきたかな～と思うとすぐにお別れ。私の英語力が乏しくコミュニケーションを図るのに苦労することも多かったですが、あたかかく迎え入れてくださり、娘のように、孫のように可愛がっていただき、涙の別れになる事もしばしば・・・。

共通していえる事のひとは、どの家庭もアットホームな感じで、特に感心したのは、ご主人がとっても優しく、奥様に協力的だということ。自発的に後片付けも手伝うし、料理も作ったりします。もっと日本の殿方も見習ってほしいものです。

そしてどの家庭にも、大家族でなくとも食器洗浄機があります。これは、行事やお祝い事の時、ホームパーティをするのに欠かせないアイテムなのです。



Melcombe Regis Rotary club
Dinner Home party

それぞれのホストの方々が集まって、幾度か私達のためにホームパーティを開いてくださいました。

みなさんの、おもてなしの心がすごく伝わってきました。



その際に折り紙をしたり、紙風船で遊んだり、割り箸の使い方をレクチャーさせてもらったりと文化交流の場にもなりました。とても和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。

殆どのホスト先の家には庭があって、十分に管理が行き届いており、花々も、大変美しいです。木には小鳥やリスのえさがつるされていました。どの家庭にもりんごの木を植えています。

お手製のアップルパイやレモンケーキなどいただいたのですが、私は小さい頃、両親が共働きだったため、おやつの時間はなかったし、お手製のお菓子など食べた事がなかったので、とても心が温まり、感激しました。それに、とても美味しかったです。いくつかレシピを教えていただいたので、私も是非トライして、もっと料理の腕を磨こうと思います。

おわりに



**Bath Rotary Club Host family
David & Janet with Yoshimi**

これらの wonderful opportunity を与えてくださった各ホストクラブのコーディネーター、ホストファミリーの方々、GSE に携わってくださった全てのみなさんに、深く感謝致します。みなさんの心のこもったおもてなし、温かい励ましがあったからこそ、1ヶ月間の海外生活を乗り越えることができたと思います。イギリスという歴史の深い国の厳かさ、美しさ。私の心を癒してくれて本当にありがとう。異文化を学び、人々のやさしさに触れ、そして触れ合う事。これらは生涯忘れられない宝物として、大事にしたい

きたいです。

残念なことに、研修後半、毎日の時間刻みのスケジュール、自分の気持ちを言葉で上手く表現できない事に対する苛立ち、体調の変化などで心に余裕が持てなくなり、不満をもらし、気づくと、私が人と人との関わりで、一番大事だと思っている「笑顔」がぎこちなくなっていました。そんな自分が情けなく、自己嫌悪に陥る時期がありました。自分の甘さ、弱い部分が浮き彫りになりました。そんな私を、それぞれ職種も、



考え方も違いますが、チームリーダーの山本氏は導いてくださり、メンバーは優しく受けとめ、励ましてくれました。互いに協力し、助けあう事。

これこそが奉仕の感動を分かち合うという事、そしてそれは強い絆になると考えます。

この貴重な経験は大切な仲間を得られたと共に、確実にさらなる職務の向上、自己の成長につながると確信しています。

以上をもちまして、GSEプログラムの帰国報告とさせていただきます。

G.S.E を終えて

福井北ロータリークラブ推薦

塚本 淑未

はじめに

「海外に1ヶ月いって見ないか？」

2006年春、会社の会長にこう声をかけられた。

2006年秋、今プログラムが終わりここにいる。

今私の中に確実に、今までなかった考え、経験がある。

交換先がイギリスだと聞き私はすぐに参加したいです、と答えた。前々から興味があった国の一つであった。私の好奇心、興味、そして今後の会社における自分のステップアップに繋がるのではないかと考えたからである。

しかし私は今までほとんど日本を出たことがない。福井で生まれ、福井で育ち、自宅すら一週間以上出たことがない私が務まるのだろうか。不安と期待とで複雑な気持ちで重いスーツケースとともに福井を出た。

天候

約13時間のフライトを終え、飛行機から降りた私たちを待っていたのは思っていた以上に寒いイギリスの気候だった。日本と同じくらいの気候だろうと少したかをくくっていた。夜だったこともあるが、必ず一枚下に着ようとその日から心に決めた。

イギリスは雨がよく降ると言われる。幸運なことに私たちは曇る日は多かったが想像していたより雨にあうことはなかった。イギリスの雨は日本の雨に比べて細かい。シャワーのような雨だった。雨にあってもべたべたになることがあまりなく、イギリス人はあまり傘を持たないように感じた。ただしレインコートはみんな持っていた。そして風も強い。Portland でライトハウスに行った時、海ということもあったが、風が強くて前を歩くのも必死だった。いろんな写真を見ても風で髪が乱れているものばかりである。



街並み

イギリスの街並みはとてもきれいだ。そして多くは何百年も前に作られたものだ。日本は木造が多いので何百年級の家を見るにはお寺などに行かないと見られないし、痛みも激しい。しかしイギリスでは普通にこういった年季の入った家をリフォームして暮らしている人が多い。しかも全く気づかないくらいきれいだ。そしてセキュリティがしっかりしており、外出する際は必ず暗証番号を入れるタイプの鍵をかける。家にいたとしても鍵は常



にかけ、開けるときでしか鍵をはずさない。私の住んでいるところは、外出する際には鍵をかけるが、家にいるときはあまり気にしている人は少ないのではないと思う。自分の無用心さを少し恥じた。それから家々は景観を乱さないように建てられている。そしてなんといっても自然が多い。経済大国なのでくちゅくちゅしているのかと想像していたが、訪れた地区はのどかなところが多い。

広大な土地にたくさんの牛や馬、羊が放し飼いにされていた。そしてボランティアの人たちによって、歴史的建物は保護、補修され、今もなお昔の姿のまま残されていた。何百という歴史的建造物はイギリス全土に存在している。

紅茶

イギリスといえば紅茶！というのがやっぱりイギリス人はみんな紅茶を飲んでいて。目覚めに一杯、朝食に一杯、お昼前に一杯、お昼に一杯、おやつに一杯、夕食後に一杯、寝る前に一杯・・・おまけにミルクと砂糖もたくさん入れて・・・噂どおりであった。圧巻。私も大概紅茶が好きだがこんなに飲むとは予想だにしていなかった。イギリス滞在の間、クリームティを3回体験した。これはイギリスの伝統的なアフタヌーンティの一つであり、スコーンにたっぷりのクリーム（バタークリームの甘みがないようなクリーム）とストロベリーやブルーベリーなどのジャムを塗って紅茶といただくというものであった。そして紅茶を作る際、マザーと呼ばれる亭主がいる。マザーが同席する人の紅茶の好みを聞き、（砂糖はいるか、ミルクは紅茶の先に入れるか後に入れるか：これは議論ができるほどイギリス人には重要な問題らしい）お茶をいれ、配る。私は茶道を習っているのだが、茶道も亭主がおり、同席する人のためにお茶を立てる。お茶をいれて人をもてなすという点では通じるものがある。大きく違うのはそのお茶とともにおしゃべりを楽しむことだ。茶道では静かにお点前を拝見し、お茶とお菓子をいただき、器を拝見し、目で感じることが多い。こちらでは食べながら季節の話をしたり、互いの世間話をしたりしてこの時間を楽しむ。一般的に茶道はとても特別な空間であり、日本人でも日常的によく行うことではないが。

日本から茶道の道具一式を持っていったので、ホスト先の方にお茶を時々たてた。まず持ってきた道具一つ一つに興味があるようで、これはなんだとよく聞かれた。そして

茶筌を見て、なぜお茶をかき混ぜるのがわからないようだった。イギリスでも **green tea** を見かけることはしばしばあったが、別のお茶とブレンドされていたり、緑茶の渋みがあり出していないものが多かったり、日本で見かける緑茶とはまた違うものであった。なので私が持参した抹茶を見てとてもびっくりしていた人もいた。味はどうもイギリス人の口には合わないようでとりあえずうなずくだけの人を多く見かけた。茶道のよさを伝えるのは私のつたない英語では非常に難しいことであった。

Chippenham では格式あるホテルでアフタヌーンティを戴く機会があった。席に着き待つこと数分。私たちの前に現れたのは想像をはるかに超えたアフタヌーンティだった。先



に紅茶が来て、そのあとサンドイッチにスコーンにケーキが5種類。お昼ごはんもまだまだ消化し切れていない 17 時の胃袋にはかなりの任務であった。結局食べきれず持って帰ったが、その夜のミーティングでは料理に手を出せなかったのはいうまでもない。

Dorchester でのホストの **Rose** が私に見せたいものがあるといってあるものをみせてくれた。木製の箱のこれは **Tea caddy** と呼ばれるもので、昔紅茶がとても高価だったとき、茶葉をこの箱に入れて鍵をかけて大事に保管していたそう。この品は彼女のおばあちゃんのおばあちゃん（約 18 世紀頃！）が持っていたもので、中にはスプーンが入っており、時計の絵がかいてあったり、ハート型だったりとてもかわいらしく、しかもどれをとってもきちんと保管している様子が見られ、それを私に見せてくれたことがとても嬉しかった。



食事

日本にいたときからイギリスで有名な食べ物は？と聞かれても正直思いつかなかった。出てきたところでスコーンだろう。イギリスは朝からボリュームのある朝食を取る。**English break fast** といい、スクランブルエッグやベーコンやトマト、ソーセージ、豆などがワンプレートで出され、トーストと一緒に食べる。全く見慣れないものではなかったので躊躇することなく食べることができた。滞在している間よく食べたのがローストビーフであった。いろいろな野菜をのせ、グレービーソースをかけて食べる。とてもおいしかった。私は日ごろあまりフォークやナイフを使わないので、非常に苦戦した。中でも苦戦したのはグリnpiecesである。日本で見かけるよりもっと小さいもので、なるべくフォークナイフを使って食べようとしたが、結局はフォークを右手にもちかえて食べた。慣れないフォーク、ナイフに戸惑っていたこともあるが、それ以上にイギリスの人たちは食べ

るのが早い。あっという間に食べ終わり、話し始める。きっと日本だったら食事中だったら箸をとめて話し始める。だから食べ終わるのが遅いのであろう。イギリス人は早く話しをするために早く食事を済ます。これが彼らのステータスではないかと思う。それからよくワインを飲む。よく聞かれたのは「赤か？白か？」だったと思う。私はビールを嗜むほうなので、ビールというとなんか驚かれることがあった。日本では「とりあえずビール」といわれるほど、ビールの方が多いがイギリスでは「とりあえずワイン」だった。

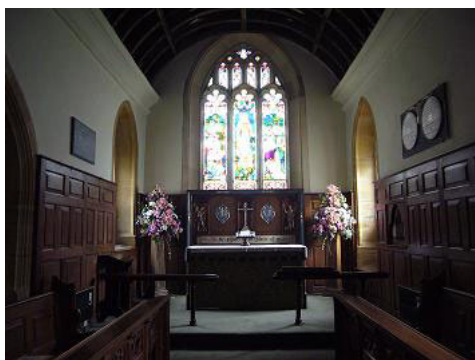
Wells でサイダー工場に行くことがあった。日本で飲むあの透明な甘い炭酸水を想像していたので<Do you like Cider?>と聞かれたとき「もちろん」と即答した。そのときとても



驚いた顔で私を見たので疑問に思ったが、理由は工場についてすぐにわかった。工場に着くと発酵したにおいがして、よく考えるとりんごが発酵しているにおいであることに気がついた。どうもイギリスというサイダーはりんごを発酵させたお酒のことで、私たちが日本で目にするサイダーとは違うものであった。アルコールは約6～7%。とても飲みやすかった。

宗教

何度か教会につれていってもらったことがあった。何百年も前の建物であったり、とても小さいものであったり、由緒ある建物であったり、どれも興味深いものであった。日曜



日にはみんな街の教会にいて祈りを捧げ、歌を歌いに行くそう。日本にはこのような行事はない。私は仏教徒である。厳密に言えば、仏教徒ということになっている。とあるホストファミリーに日本の結婚式について聞かれたことがあった。白い着物やはかまを着て日本伝統のやり方でやる人もいるが、最近は教会で挙げる人のほうが多いと思うと答えた。するとなぜ仏教徒なのに教会で挙げるのか聞か

れた。うまく答えられなかった。私たちは仏教徒ではなく、無宗教者と答えるほうが正しいのかもしれない。確かに日本の文化は複雑に多文化と絡み合っている。もし切り離してしまうと成り立たないのではないかとさえ思う。私は今まで自分が信仰している神について深く考えることがなかった。なのでこんなに宗教を熱く信仰している人たちはすごいと思う反面理解できない自分もいる。しかし彼らはとてもキリストを崇拝していることはとても感じ取れた。誇りを持ち、キリストの教えが誰でも説明ができる。そこにはとても感心した。

リサイクル

ステイしていたホスト先ではゴミの分別を求められた。日本でも当たり前になっている分別。イギリスでは週二回、各家庭が家の前にゴミを出しておけば回収車が取りにくる仕組みになっていた。**Taunton** ではゴミ処理場に行った。ここでもゴミは分別され、しかも日本よりももっと細かくビンが分別されていた。**Weymouth** でのホストの **Alex** がリサイクルショップに連れて行ってくれた。使わない家具をもらい、修理して格安で欲しい人に売る。そのお金はチャリティになる。日本人はチャリティに興味があるかと聞かれた。毎年夏に募金を募るテレビ番組があると答え、**Alex** はとても嬉しそうに笑った。彼は貧しい国で親もなくし、働くにはまだ小さい一人の少年の援助をしていると言った。会ったこともなく、別に知り合いでもなく、ただ写真で見ただけの子である。彼が大きくなり働き出せるまで、彼の身の回りのことなどの支援をするという。**Portland** のホスト **Tom** も別の子の支援をしていると言っていた。まさしくロータリーの絆を大事にしている人たちだなと感じた。

ボケーショナル

私は和菓子屋で販売員をしており、今年の5月から百貨店に入っている支店の店長をしている。この和菓子というジャンルはとても難しいもので、まずイギリスにはこのジャンルがない。位置づけするところがない。そして和菓子を説明するにしてもあんこが存在しないので伝わらないことが度々あった。悪くなるものなので実物を持っていくわけにはいかず、その代わり写真をもっていった。できる限りあんこを英語で伝えるように日本で訳してきたが、うまくいかないこともあり不完全な思いも正直ある。それでも一生懸命理解しようとして、私にあった職業訓練を探してくれたことにとても感謝している。

Yeovil にいったときに地元の百貨店の **Denners** を訪問した。お客さんに親身になって話をしているのが印象に残った。ただ日本人的視点だが、お客さんにお礼をしないことにとても違和感を感じた。お礼がイギリスにはないものだとわかっているがなんだか敬意がみられないようだった。日本のほうが店員とお客さんの間の位置づけがはっきりしていると感じた。

Portland では朝から百貨店で実際に働かせてもらう機会を得た。私が担当したのはお菓子とおもちゃのフロアーでまだ10月の初めだというのにハロウィーンを飛び越してクリ



スマスムード一色だった。店にはクリスマス用のおもちゃやお菓子が所狭しと並べられ、平日にもかかわらず多くのお客さんが来店していた。そこで店員が使っていた機械にとっても興味を持った。アンテナから赤外線が出て、バーコードを読み取る。これで値段の設定や在庫を把握するという。上の階はたくさんの商品が置いてある倉庫があった。ここは機械で管理されていないので商品を探すのはとても大変そうだった。管理すればもっと人件費も抑えられるのではないか思った。昼からはお菓子の補充を手伝った。



Pic'n mix というのがイギリスのどこのお菓子屋に行っても見受けられる。決まった入れ物に自分の好きなお菓子を自分で選んでいっぱいになるまで入れることができるというものだ。日本でもところどころある。チョコレートやキャンディ、ガム、グミ。たくさんの量があってなかなか覚えられなかった。イギリスでは子供はともかくおじいちゃん、おばあちゃん、男の人もうれしそうにお菓子を選んでいた。和菓子屋にはこういった形態はないがもしあったらもっと人々に近い存在になれるのではないかと思った。

Taunton で Miles という地元では有名な紅茶の工場に行った。正直私はここに行くのがとても楽しみでわくわくしていた。Miles は高級な紅茶らしく、ホテルなどでしか売っていない紅茶だそう。まずお茶をテイスティングする部屋を案内された。たくさんの茶葉があり、どこに何があるかもわからないくらいだった。テイスティング用に6種類のお茶が用意されていて日本からきたということで、玄米茶も用意してくれていた。初めてテイスティングに挑戦する。プロの人はまず匂いを嗅ぎ、口の中で何度か味を確かめ、飲まずに捨てる。私にはとても高度すぎて



できなかったが、私の好きな味とイギリス人の好きな味が全く違ったのでちょっとした文化の違いを感じることができた。私が茶道をしていることを知ると会社の責任者の方が興味津々に茶道で使う抹茶について聞いてきた。説明するとお茶がパウダー状になっているということにとっても驚いていた。彼らはお茶は全て茶漉しで漉したりパックに入っているものだと思っていたようで、お湯をいれると溶けて、かき混ぜるということに驚き、興味を示していた。

実際に商品を作る工場も見せていただいた。いろんな種類の紅茶をブレンドし、パックし、袋詰めにする作業は、多くは機械だったが、パッキングや包装は人の手でやっていた。私はてっきり全工程が機械だと思っていたので驚いた。だから作る量も大量生産ではないのでホテルなどにしか置けないのであろう。そうすることで少なからず付加



価値が付いているのだと思う。ちょうどクリスマス用の商品をラッピングしてお菓子を入れて包装していた。ここでもお茶とお菓子は切れない関係のようだ。

最後に

一ヶ月という期間はあっという間に過ぎ去り、出発した頃抱えていた不安はいつしか消えてしまった。これも私を暖かく迎えてくれた9つのホストファミリー、コーディネーターの方々のおかげであることには間違いない。私のつたない英語で何度も彼らにもどかしい思いをさせてしまった。そして私も自分の思っていることの半分も伝えられなかったことに対するもどかしさ、思っていることを相手に伝える難しさ、そして大事さを改めて知った。「Another day, another place」Weymouthのホストが教えてくれた言葉。いつか彼らにもう一度会いたい。

一ヶ月一緒に行動を共にして、いろんな話をしてくださったリーダの山本さん、そしてメンバーの2人。自分の直さなきやいけないところ、真似したいところたくさんを学んだ。今回のプログラムで私が得たことは気のきく人間になるということ。相手が何を欲しているか、どうしてあげることがよいのか、常に考えてあげられる気持ちの持ち方が大事だということを学んだ。サービス業である私の仕事にも通ずることである。

そしてなんといっても感謝してやまない会社の方々。支店の店長である身なのに一ヶ月も開いた穴をきちんと埋めてくださった。すばらしい機会を与えてくださった社長、会長。誰よりも体の心配をしてくれた家族。推薦してくださった福井北ロータリークラブの方々。みなさんの支えがなければ私の中にある貴重な経験は存在しない。

最後に私にたくさんの考え、冷静になる時間、自分を見つめる事を与えてくれたイギリス。いつかまた訪れることを夢に見ながら、イギリスでのお茶とお菓子の関係に私が販売している和菓子が少しでも近づけるように私も日々精進していきたい。

『GSE 研修に参加して』

湖南ロータリークラブ推薦 (甲賀高分子株式会社勤務)

苗村 由香里

① はじめに

2006-07 年度、GSE 研修は 9/19～10/20 の日程で RI 1 2 0 0 地区（イングランド南西部）を訪れました。私が研修参加にあたり、個人的にたてた目標・目的は、1. できる限り多くのイギリスの方と話す。2. イギリスの良いところを具体的に見つけてくる。3. 日本・滋賀・RI 2 6 5 0 地区の他の府県について、イギリスの方に興味を持って頂けるよう努力する。この3点でした。私の自分に対する評価としては、3つ全てをクリアできたと思っています。イギリスの方は皆さん明るくとてもフレンドリーでした。明るいだけでなく、多くの方が常にユーモアを持ち合わせておられました。これは私が最も見習うべき点であるように思いました。私のイギリスでの1ヶ月を項目別にお伝えします。

② 派遣地区 RI 1 2 0 0 地区・イングランド南西部について

私たちが訪れたのは、イングランド南西部で首都ロンドンからは電車で1時間半～2時間程度、緑豊かなカントリーサイドです。気温は日本と同じくらいか少し寒い程度です。

まず、驚いたことは道路を走っているとすぐ近くに牛・羊・ヤギなどの家畜がいたことです。とてもフェンスが低く、逃げ出さないのかな、などと要らぬ心配をしてしまいました。さらに、場所によっては家屋のすぐ隣に家畜が多くいることもしばしばありました。（日本では、牧草地と住宅地は別の場所にあるように思います。）私も日本ではカントリーサイドに住んでいますが、全く雰囲気が違いました。全然高い建物がありません。そして、家の形・色がよく似ているため、とても町のイメージが良かったです。日本で古い家と言えば、築50年以上だと思えます。イギリスで古い家と言えば、築100年以上で私が聞いた中で一番古かったのは築700年でした。平均して築100～300年が多いように思いました。これは私の推測ですが、日本に比べてイギリスでは家の建て直しが極端に少ないため、昔の街並みのまま残っており綺麗に見えるのではないかと思います。

そして、もう一つ驚いたことは日本車がとても多いことです。街中では多くのカーディーラーを見かけましたが、トヨタ・ホンダ・日産をはじめ大変多くの日本車がイギリスで手に入り、その中でもホンダはイギリス国内に工場を持っているそうです。そして、日本車も海外の名だたる車メーカーに並んで人気があると聞きました。日本の産業・工業・経済にとって、日本車メーカーは多大な貢献をしていると私は考えるので、日本人としてこのことは大変嬉しく、誇りに思いました。ロータリアンの方の中にもトヨタ車に乗っておられる方がおられ、日本車の話を題材に盛り上がりました。

③ イングランドでの1ヶ月について

まず、派遣の決定を頂いてから出発までは、早く研修に入りたい気持ちでいっぱいでした。同じ派遣団員の仲間と協力しながら、団長の山本氏にも助言を頂き、準備を進めていきました。特にイギリスで披露するプレゼンテーションの作成に時間を費やしました。時間にして30分程度が必要でしたので、かなりの枚数を作成しました。見て楽しめるプレゼンを目指したため、画像をふんだんに使用しました。イギリスに到着してからも見てくださいるロータリアンの方々の反応に合わせて、推敲を重ねました。そのため、自画自賛ではありますが、



1200地区の景色



こんな至近距離から
撮影することも可能

プレゼンテーションの内容は素晴らしいものになったのではないかと感じています。

イギリスに到着して2～3日で、到着した喜びと自分の英語が通じる喜びで私のテンションは大変盛り上がっていききました。1ヶ月の長丁場なので最初から飛ばし過ぎると最後まで持たないな、と思っていましたが、それは乗り越し苦労で1ヶ月間ずっと楽しく過ごすことができました。

研修期間の1ヶ月間、ほとんど毎晩パーティーを開いてくださいました。イギリスの方々は一回のしょくじですごく量を食べます。それがとてもおいしくてずっと平らげていたら、少しポッチャリしてしまいました。食事にポテトはつきもののようです。日本食でいうところの米にあたるものかと思います。揚げポテト・茹でポテト・マッシュポテトなどありましたが、必ずポテトは食べます。そこに茹で野菜とメイン（肉もしくは魚）でした。メインはとても大きなお肉もしくはお魚でした。そして、付け合せのソースも大変おいしく戴きました。私が一番気に入ったのはアップルソース（林檎の実も入っています。）で、鶏肉を戴く際につけるソースだそうです。そして、必ずデザートをつけてくださいました。デザートもまた大きかったです。多かった種類は、小麦粉をこねてそばろ状にしたものに、クリーム・フルーツソース（アイスクリームを乗せることもある。）をかけたものです。プディングという名前で、レストラン・パブでは必ずと言っても良いぐらいよく見かけました。

パーティーではホストファミリーを引き受けてくださったロータリアンの方々、その地区の研修を組んでくださったコーディネーターの方々とお話する機会がたくさんありました。私の拙い英語でも熱心に聞いてくださり、分かりやすくとてもクリアな英語で答えて頂いたことは大変有難かったです。その中でも最も多かった話題は家族のことでした。イギリスでは、他の多くのヨーロッパでもそうであると思いますが、18歳で学校を卒業すると親元を離れて一人で暮らすことが普通であるようです。早くに親元を離れるため、一緒に暮らしているよりも親子関係がより密であるように感じました。親子同士や兄弟とは週末頻繁に会っているという話を多く聞きました。私も家庭・家族の話をたくさんしました。私は自宅で暮らしているので、あまり意識したこととはなかったのですが、家が重要であるということを改めて感じる良いきっかけとなりました。

④ボケイショナルについて

1ヶ月の期間中、6回のボケイショナルを行い、その他にも4つの会社・教育機関を訪れました。

到着して3日目、最初のボケイショナルは日本でも有名な靴のメーカーClarksでした。クラークスに到着してまず、唯一の日本人デザイナー・矢野さんが迎えて下さいました。クラークスが世界中からデザイナーを募集し、その東京への募集に応募されたとの事でした。イギリス本社で仕事するということを選び、さらにおそらくとても高い倍率だっただろうと思われますが、その中を勝ち抜かれた（その分、大変な努力もしておられるでしょう。）



という、とてもすごい女性に見えました。クラークス本社の社屋はとてもオシャレです。受付すぐ後ろの所に早くもお酒のフタで作られた大きなアートが展示されていました。その他にも社内のいたるところでアートを見かけました。クラークスはやはり靴のメーカーというだけあって、デザインに関することを重視しているであろうと感じました。会社に関するプレゼンテーションもとても詳しく良かったです。現在、売り出している商品に関してはもちろんですが、クラークスの歴史に関し、とても詳しい情報を得ることができました。やはり今のクラークスがずっと昔からの歴史を積み重ねて存在していると感じました。本社を訪れるとともに、併設してあるクラークス博物館も続いて訪れました。そちらでは世界中の靴の歴史を見ることができました。なかなか見ることのできないものも多く、アラスカ・ロシアでの防寒靴や世界の乗馬ブーツなど興味深く見ました。

Tauntonでのホストファミリーであったピーターはconnexions(コオネシオンズ)という会社社長の方でした。民間の株式会社ではなく、NPOでした。地域の若者を支援するのが目的で具体的には、1. 学校を訪れて進路

の決め方についてアドバイスする。2. 若者の就職や進学を支援する。3. 若い父親・母親を支援する。といったことでした。事務所に1Fにはフリースペースがあり、日本でいうところの職業安定所の役割をする部屋が付随していました。事務所を訪れて感じたのは、職員皆さんが大変余裕を持って仕事をしているということでした。ラジオをかけている人もおられたので、なかなか日本の職場では考えにくいことだと感じました。まず、経理部門を訪れました。収益のほとんどは行政（政府）からの補助でした。というよりは、経費として必要な金額を政府から補助されていました。経費のほとんどが人件費と家賃代で、私の目から見てとても面白く見えました。決算資料にしても、とてもややこしいものというイメージがあったのですが、すごく単純なものでした。そして、私が最も訪れたかった広報部門を見せていただきました。社内のイントラネットと社外に対するホームページを全て管理しておられる女性に應對していただきました。私も会社でホームページを作成しているので、大変興味がありました。イントラネットもホームページもすごく多くの情報量がすっきり小さくまとめられていました。私にはできないことで、すごいな、と思ってただただ感心してしまいました。どのようにして管理を行っているのか、詳しい質問をしなかったことが大きな反省点です。同じく広報部門でポスター担当の方もおられました。外部の人々に対し、アピールする（子育てを楽しもう！色々なことにチャレンジしよう！といったような呼びかけが主である）目的でポスター・チラシの類を作成しておられました。パソコンを利用したイラストを勉強する専門学校を卒業しておられ、画像ソフトに関してはプロフェッショナルでした。私も同じソフトウェアを使用しますが、遠く足元にも及ばないと感じました。そしてまた、イラスト等を作成する際の素晴らしい感性を持っておられ、“インスピレーションで作成する”と言っておられたのが印象に残りました。



Taunton ロータリークラブがホストクラブであった際に、会長の方が経営しておられるゴミ最終処分場 LAND FILL SITE を見学しました。とても広大な敷地で敷地内を移動するのに車が必要でした。ゴミ処理というのは全て行政が行うものだという先入観があったので、一個人が経営する会社であるということに驚きました。（よく考えてみると、日本でもゴミ処理を行う民間企業はあるように思います。ただ、日本でのゴミ処理を行う会社はリサイクルということをまず念頭に置いて、企業活動がなされているように思います。）LAND FILL SITE では、缶・ビン・ペットボトル・ガラスの分別や生ゴミなど、毎日発生するような一般的なゴミが回収されていました。さらにここは完全クリーンなゴミ処理場だそうで、回収した後は全て分別されるか、設備を利用して再利用できる材質に変えられていました。それは大変徹底されていて、かなりの設備が設置されているな、と感じました。汚水も回収しているようで、それにバクテリアを注入して通常の水に戻し、それを川に流しているという設備が大変印象に残りました。かなり大きな設備で何工程にも分かれて汚水が水に戻るようです。その詳しい原理は分からなかったのですが、初めて見た設備だったので興味深く観察しました。設備の中の1つには、大阪にある日本企業が最初に利用を始めたというのがありました。生ゴミと園芸からでたゴミを混ぜたものを3週間かけて再利用が可能な堆肥にするといったものでした。これも見たことがない設備でした。イギリスはそれほどリサイクルに力を入れているというイメージはありませんでした。しかし、現在は全世界的に環境問題やエコロジー・リサイクルに関して、関心が高まっていると感じました。LAND FILL SITE でもゴミを回収して、再利用できるものに変えるという光景をいくつも見ることができました。私が一番気になっていたのは、ゴミ処理業だけでどのようにして企業経営を行っているのか、利益を出しているのかということでしたが、再利用できるようになった最終的なものを売っているということでした。



フランスに程近いジャージー島というところで行われた地区大会に参加しました。行きの飛行機はなんとプロペラ機でした。プロペラ機に乗るのは初めてのことで少し緊張していましたが、ジェット機との違いは乗っている間は分かりませんでした。

出発時、イギリス本土は曇りでしたが飛行機から外を見ているとだんだん雲がなくなり、ジャージー島は快晴でした。全く寒くなく、さらに暑いということもなかったのもとても過ごしやすい気候でよかったです。

到着してからは少し休んだ後、夜のパーティーに出席しました。なんとそのパーティーは仮装パーティーでした。招待状には“ファンシードレスでいらして下さい。”と書いてあって、確かに不思議には思っていました。仮装パーティーとは思いませんでした。初めて会った方々にも積極的に声をかけ、素敵な衣装の方々の写真をとらせて頂きました。仮装パーティーと分かっていたら私も何か衣装を用意したかな、などと考えましたが、おそらくロータリーの方々の“ファンシーさ”には遠く及ばなかっただろうと思っています。そのときは分かっていたいなかったのですが、そのパーティーはゲストと主要幹部だけが出席していたようでした。そうすると、なぜ私が招待状を頂くことができたかというなども解くことができました。

そして、2日目にはついに400～500人の方々の前でプレゼンテーションをする日でした。朝のかなり早くから朝食を食べ、少し緊張感を持って会場に行くと最前列に我々の名前が置かれた椅子がありました。いよいよだな、という気持ちがふつふつと湧いてきましたが、プレゼンをする直前になると不思議なことに緊張はしませんでした。私自信は地区大会でのプレゼンが一番楽しんでできたような感じがします。地区大会より前にお世話になったホストファミリーの方々も多く来られており、始まる前に元気付けていただいたことも力になりました。プレゼン中の私の問いかけにも会場の皆さんが反応して下さいったこともあり、長いプレゼンを最後まで集中を切らすことなくやり遂げることができました。私たちのプレゼンでどれだけの方が私たちや日本に興味を持ってくださったかは分かりませんが、お一人でも“日本に行ってみよう”と思った方がおられたことを願います。

地区大会では自分がプレゼンをするだけでなく、他の多くの方のプレゼンを聞きました。当然、皆さんが英語でプレゼンをされるので聞き取れない部分も多くあったのですがプレゼン中に会場からたびたび笑いが起きていました。真顔で話されているのにもかかわらず、会場から笑いが起こるということもあり、真面目なスピーチの中にふだんにユーモアを織り交ぜておられるようでした。そこで私が学んだことは、スピーチをするときには笑顔でユーモアを含め、そして聞き手にも問いかける。こうすれば、聞き手も飽きることなく、聞きやすいということを学びました。

さらに、ロータリーが行っている活動についてのビデオを見る機会もありました。ロータリーの活動について日本を出発する前に少し勉強していたので、活動内容について大まかには知っていたのですが、実際どのようにして活動しているかという現場の状況を見ることができ、それも勉強になりました。

⑥最後に

今回、GSE研修に縁があって参加させていただくことができ、本当に良い経験となりました。団長の山本氏は一ヶ月間ずっと支えてくださいましたし、同じく派遣団員の塚本さん・木村さんとは互いに協力し合い頑張りました。

イギリスではホームステイさせていただいた9家族の皆様、各コーディネーターの方々にはもちろんとてもお世話になりましたし、毎日の研修ではその他にも本当に多くのロータリアンの方々が付き添ってくださいました。お会いした人数が数えられないほどでした。ホストファミリーの方々とはこれからも長くコンタクトをと



り続けたいと思っています。ホストファミリーの皆様が私のことを娘・孫のようにかわいがってくださいました。別れがたい出会いばかりであったことは大変嬉しい限りです。

このような機会を与えてくださったロータリーの皆様、私が留守の間に私の仕事を助けてくださった同僚の皆様に本当に感謝しています。今後もより多くの方々に GSE 研修を経験して、人それぞれの様々な経験をしていただきたいと思います。

G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月25日(日) 記録・報告者 菅谷 文夫
参加者	河島 勲 北岸 孝雄 田淵 和治 藤野 潔 菅谷 文夫 GSEメンバー5名 奥田 祐子(通訳) 廣崎 充子(夕食時) 計 11名
時間 内容	7:00 八日市商工会議所出発 10:00 関空到着 関空にて歓迎 11:00 関空出発 13:00 名神高速大津サービスエリアにて昼食 15:00 東近江市到着 太郎坊宮にて神職と巫女で歓迎 16:30 蒲生ゴルフ倶楽部 コテージ到着 17:00 歓迎夕食会 20:00 八日市商工会議所 到着
コメント	

G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月26日(月)	記録・報告者	野神多美男
参加者	河島会長、北岸幹事、門谷副会長、田中 敏彦、圓渕 和治、藤野 潔 池田 謙一、奥村武一郎、加藤 博之、富田 正敏、野神多美男 通訳(奥田・森) GSEメンバー 5名 計 18名		
時間 内容	9:00 八日市商工会議所出発 9:20 FM東近江にて番組出演 10:30 東近江警察署(署長表敬訪問) 署長との対談では、イギリスと日本の犯罪数の違い、圧倒してイギリスが多いが日本では、被害届を出さないと事件にならないがイギリスでは通報でも事件になる。イギリスは特に犯罪を犯し難いような夜間灯などの色を考えたり犯罪者の留置場の壁の色をピンクにして精神的和らぎを考えたり、色に敏感で色の心理作戦をとっている。これによって年間数多くの犯罪を少なくしていることなど、日本とイギリス警察の違いを話された。 11:15 駅前交番……沖野交番 警察官の所持している物の違い、出動回数の違い、どのような犯罪が最も多いか、現場での対処など、実践的な話しがされた。 12:00 レストランいわしま 昼食 13:40 いわしま 出発 14:00 県防災航空隊見学 レスキュー隊の活動をビデオで見る。隊員の訓練見学とヘリコプターと記念写真撮影、ヘリを倉庫より出して頂いた。 ヘリコプターの解説、定員10名で時速230kmで滋賀県を20分でカバーする。 15:00 中部清掃組合にて炉の説明と見学 新設備は90億円の投資で国と県が30億円の残りは1市4町の税金でまかなわれる年間経費は11億円かかる。 16:30 山川・山本税理士との懇談会 税理士の資格の件、日本とイギリスの企業の決算公開について両国の税率の話しなど活発な意見交換がなされた。 17:30 ホームステイのためホストファミリー宅へ移動、宿泊		
コメント	大変意義のある一日でした。日本に来られてはじめての視察と言うことでGSEメンバーは多少緊張されて、疲れられたことだと思いました。又、夜、ホストファミリー宅へ写真をとりに回りましたが、皆大歓迎をうけておられました。		



G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月27日(火)	記録・報告者	高木 一正
参加者	河島 勲、北岸 孝雄、門谷 征勝、圓渕 和治、藤野 潔、池田 謙一 奥村武一郎、加藤 博之、富田 正敏、周防 清二、西野 哲夫、高木 一正 GSEメンバー5名 奥田 祐子(通訳) 森 鉄兵(通訳) 計 19名		
時間 内容	9:00 八日市商工会議所出発 (門谷氏のバスで近江八幡市へ) 9:38 八幡救命救急センター(近江八幡市立総合医療センター)へ到着 プレゼンテーションルームに案内されGSE, RCメンバー歓迎される 事業管理者、奥 信氏の挨拶で病院建設の経緯を説明して頂き 院長代行、須貝順子氏からセンターの仕事や設備の事等、ビデオにて 紹介して頂きました。その後、院内各階を見学 10:58 昼食 びわ湖畔のレストランでランチと休息 12:30 安土城跡を散策 14:00 国立滋賀病院 到着 西村事務部長より改修後の国立病院機構、滋賀病院の経緯や設備の 概要説明を受けました。又、全国で146の国立独立行政法人病院機構が あるがその内の一つでもあると説明頂きました。特に結核の専門診療は 滋賀県内では、ここだけで診療種目が19あるが、組織的には、ピラミッド 型に構成されていると言う事です。各病棟をナースの方々の案内で説明 を受けました。 15:30 東近江市役所へ到着 東近江市長中村氏へ表敬訪問。久田助役、種村収入役、中島政策官他 市幹部紹介。中村市長の挨拶。(原稿あり) GSE団長挨拶。メンバーの紹介。来たばかりですが、色々な方々と交流が 出来た事を喜んでいます。忙しいスケジュールの中、市長が時間を作って 下さいました事に感謝致します。プレゼントの交換。その後、予定には ありませんでしたが、市長が皆さんを議場へと案内。議場で記念撮影。 16:00 東近江市議会議長へ訪問。宮部議長、寺村副議長。 GSEメンバーの紹介。宮部議長挨拶。(原稿あり) プレゼントの交換。 GSE団長挨拶。日本に来る前にインターネットで調べましたが、日本の 桜がとても美しいとわかり、楽しみにしています。今回の国際交流で イギリスの人が沢山交流できる事を望んでいます。 近江牛の話で、大変盛り上がりました。 16:35 滋賀報知新聞社表敬訪問 富田社長の挨拶。東近江市のローカルな新聞ですが、身近な話題を提供し 掲載する新聞です。地元の新聞販売店の協力で東近江市民の家へ100% 届いております。又、イベントの記事や色々なPRにも活用されています。 東近江市以外の大津や甲賀地区には記事の内容が変わります。 朝一番に家族中が愛読している新聞です。		



G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月28日(水) 記録・報告者 今岡 多望
参加者	河島 勲、門谷 征勝、北岸 孝雄、田淵 和治、藤野 潔、向 敏男 今宿 幸男、上野 照雄、奥村淳一郎、奥村武一郎、加藤 博之、小森 久男 加藤 正明、山田みを子、野神多美男、廣崎 充子、今岡 多望、GSEメンバー5名 奥田 祐子、森 鉄兵(通訳)
時間 内容	8:45 八日市商工会議所 集合 出発 9:40 彦根港 到着 10:30 彦根港より遊覧船に乗船 11:10 竹生島 到着 島内の寺院、神社 拝観 見学 12:00 竹生島 出航 彦根港へ 13:30 彦根プリンスホテル 11F ビスタにて昼食 14:50 彦根城着 彦根城内見学、玄宮園散策 16:30 彦根市を出発 八日市へ 18:00 FMタ方の番組出演 19:00 八日市南ロータリークラブ 夜間例会
	
コメント	桜の開花には少し早い季節であったが好天に恵まれ、快適な一日となった。築城400年祭のイベントがスタートし、混雑が予想されたが、その心配もなくスムーズに移動できた。  

G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月29日(木) 記録・報告者 南 貴洋
参加者	河島 勲、圓渕 和治、加藤 博之、藤野 潔、山田みを子、南 貴洋 GSEメンバー5名 その他家族の方々
時間 内容	10時30分頃 八日市商工会議所 出発 大鳳会館へ 館内見学、英語の解説でビデオ鑑賞 その後、名神高速彦根IC経由で 長浜へ 長浜浪漫ビール工場にて昼食後、市内黒壁スクウェア等見学 曳山博物館見学後、帰路へ 午後5時より太平楼にて さよなら会食、二次会はカラオケ大会 10時すぎに終了  
コメント	

G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月30日(金)	記録・報告者	深尾 俊幸
参加者	河島 勲、北岸 孝雄、藤野 潔、今岡 多望、田淵 和治、深尾 俊幸 GSEメンバー5名、（通訳）		
時間 内容	9:00 太平楼に出迎え。車3台にて一行5名と共に商工会議所へ。 通訳 同乗の上 近江八幡へ。 10:00 日牟礼八幡宮を参拝の後、八幡ロープウェイにて 八幡山頂上へ。 11:00 八幡堀にて記念写真撮影。 11:30 昼食 オリーブにて パスタ及びピッツアなど食事して頂く。 12:20 近江八幡駅 到着 12:41 姫路行き 新快速にて京都へ。 今岡と深尾は近江八幡駅にて見送り。		
コメント	天候が思わしくなく、風も強く八幡堀の散策や100円ショップの見学は取りやめ、少し早めに駅へ向かうことになった。		

G S E 広 報 報 告 書

行事日時	2007年 3月27日(火) 記録・報告者 高木 一正
	表敬訪問あいさつ 皆さん、こんにちは ようこそ東近江市へお越し下さいました。心より歓迎申し上げます。 ようやく春めいて参りまして、桜の開花のたよりが南から聞かれるようになりました。 市内の桜もまもなく開花してくれることでしょう。 このたびのご来日はロータリー財団さんのGSEプログラムによるものと聞いております。 それぞれのご職業の分野の方々との有益な交流が図られんことをご祈念申し上げます。 本市は、日本のほぼ中央に位置しており、京都にも近く日本古来の歴史と文化に富んだ町でございます。限られた滞在時間だとは思いますが、本市での滞在を満喫して頂ければ有難く存じます。 また、八日市南ロータリークラブの会員皆様には、平素より国際交流事業にご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。今回の受け入れに際しましては、早くより色々ご準備頂いたことと存じますが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。 最後に、皆様方の旅のご無事とご健康をお祈り申し上げまして、歓迎のあいさつと致します。 東近江市長 中村 功一
	皆さん、こんにちは。東近江市議会議長の宮部です。 ようこそ東近江市にお越し頂きました。心から歓迎いたします。 チームリーダーのスチュワートカースレー様を始め、遠くイギリスからお見えいただきました皆様、東近江市の印象はいかがでしょう。 来日されました皆様は、其々専門のお仕事の分野でご活躍の方々ばかりであり、皆様と親しく交流できることを大変楽しみにしておりました。 日本の地方自治制度では、市民皆様は、市長と議会の議員を直接選挙し、市長と議会という二元的な代表を選ぶことになっており、「より住み良い東近江市」のために、選ばれたお互いが切磋琢磨し努めることになっています。 現在の東近江市は昨年1月に合併して誕生しましたが、市議会は、合併前の町を単位として選出された33人の議員で構成しています。 市内には、日本の文化を代表する神社や仏閣、町並みなどがございますが、お聞きしますと、既に太郎坊宮もお訪ねになり、その一端に触れておられるとのことでございます。大変嬉しく思います。 もう少ししますと、日本では、国を代表する桜の花も咲き誇ってまいりますが、皆様の今回の訪問が、大きな成果を収められ、国際交流の礎となりますことを心からお祈り申し上げます。歓迎のご挨拶とさせていただきます。 東近江市議会議長 宮部 庄七

舞鶴東滞在記録

2007 年 3 月 30 日～4 月 4 日

ホストクラブ・舞鶴東 R C

会 長・ 畑 東海男

幹 事・ 沖 泰隆

ホスト会員	メンバー	
沖 泰隆	Emma Dance	団員
稲田 尚	Thomas Case	団員
高橋行雄	Richard Kelvey	団員
中野健太郎	Luci Hortop	団員
山元 勉	Stewart R. Cursley	団長

ごあいさつ

舞鶴東ロータリークラブ

会長 畑 東海男



国際 R C 1200 地区、イギリスより GSE チームの皆様をお迎えして、国際 R C 2650 地区舞鶴東 R C 会員一同、心より歓迎いたします。一週間の滞在の間には国際 R C 2650 地区会員大会が京都国際会議場で開催され、全員 4 月 1 日に参加していただき、地区大会会場で、GSE チームの皆様を紹介させていただきます。舞鶴は日本海に面した港町で、静かで、風光明媚な、人口 95000 の地方都市ですが、又一方日本の海上防衛の拠点基地でもあります。日本には武士道という概念がありますが、これは R C の「四つのテスト」に象徴される、そのものであります。イギリスには騎士道という概念があると思われませんが、それも又同じではないかと思えます。そういった意味でも、この機会に、更なる好意と友情を深めたいと思えます。又舞鶴滞在中には、この町の様子もよく知って、そして理解していただきたいとも思えます。日本は季節は正に春、桜の花が咲き誇る、一年で最も温暖な季節であります。「春宵一刻値千金」という日本の古語もあります、舞鶴の春宵を思い出深いものにしていただきたいと思います。

滞在記録

スケジュール

3月30日〔金曜日〕

10:13 東舞鶴発 JR
12:04 京都着
13:30 京都・グランビアホテルにて八日市南RCより引継ぎ
14:25 京都発 JR
16:03 東舞鶴着 出迎えの会員と記念撮影。 ホテルへ。
16:30 ホテル到着
18:00 ホテルにてホストファミリーと夕食会
20:00 閉会 ホテル泊。

GSE 受け入れの日がきた、割と淡々とした気分である。おそらく昨年 10 月に中国大連より一週間中学生を招聘した経験からくるものであろうか、今回は大人であり又イギリス人であるということが、何となくゆとりの気分にさせてくれるのかも知れない。しかし気遣いという点においては、同じように神経を使うことであろう。13 時 30 分ホテルロビーにて GSE メンバー及び引率八日市南RCのメンバーと初対面、ユニオンジャックと GSE 旗を受け取り、喫茶でお茶を飲みながら、食事のことや、日常生活での問題点等情報を聞き出しておく。GSE メンバーの顔と名前は写真で覚えていたので、初めて会ったような気がしない。一様に明るく元気なのでほっとする。それにしても、イギリス人には男女に関わらず、文句のつけ様もないスタイルの美しさがある。それよりも八日市南RCのメンバーの、安堵した表情は印象的であった。14 時 25 分京都発 JR にて舞鶴へUターン、列者の中で概略のスケジュールを説明しながら舞鶴へ、車中 1 人を除いて皆元気であった。何よりも下手な日本語、単語でしゃべろうとする外人に大変感心してしまった。車内で汽笛一斉新橋を・・・の鉄道唱歌が流れた時、一斉に ラーフ、アンド、スマイル、どう有名なんでしょうかねえ、この曲は。彼らも疲れているだろう事を察しながら、暫しの仮眠を取らせるようにする。16 時 03 分東舞鶴駅 JR に到着、クラブメンバーの出迎えを受けホテルへ直行、18 時からホストファミリーとの顔合わせ夕食会である。夕食会も打ち解け、和気あいあい親交を深めることが出来る。食事に対してもそれほど心配することも無く、箸を使いながら、郷に入っては郷に従えの諺の如く、果敢に挑戦していた。圧巻であったのは、旬のメニューに「イサザのオドリ食い」いわゆる「白魚のオドリ」が出され、団長のスチュアートが食べたことである。私は彼に対し、心からの敬意を払わずにはおれなかつた。予定の時間を大幅に超え親交を深めることが出来ました。明日からのホームステイもこれで大丈夫、今夜はホテル泊、明日は夕方までフリータイム、ゆっくりお休み下さい。



3月31日〔土曜日〕

終日フリータイム

16:00 ホテルより GSE 生をそれぞれホームステイ先へ

今日の予定では、午後4時まで、フリータイム。その後、ホストファミリー宅へ。

GSE メンバーの希望で、11時からラポールへのお買い物に行く。特に100円ショップがめずらしそう。少し市場調査でもありそうなる団長は100万ボルトへ買い物と市場調査。白鳥街道沿いのロータリーの桜に少し頷いているようでした。

予定の5分前には全員集合、其々ホストファミリー宅へ。

昨夜の夕食会で顔合わせし、食事の事やその他諸々の情報も得ているから大丈夫であろう、何とかなるでしょう。

4月1日〔日曜日〕

国際ロータリー第2650地区

2006～2007年度・地区大会に出席

06:00 ホームステイ先よりホテルに集合、チャーター・バスにて舞鶴出発

09:00 国立京都国際会館〔京都・宝ヶ池〕着

地区大会出席

18:30 懇親会〔京都・京新山にて〕

23:00 舞鶴着

GSEメンバー・ホームステイ先へ

地区大会に参加するため、朝早くから起床。旅の疲れをもろともせず、みんな笑顔でグッドモーニング！さすが、英国の紳士・淑女、本当にスーツが似合う。バスに揺られて3時間、地区大会の会場・国立京都国際会議場に到着。沢山のセレモニーに続き、いよいよGSEのメンバーの登壇、ユニオンジャックの国旗が会場に映える。英国旗は一般にユニオン・ジャック（Union Jack）と呼ばれているが、ジャックとは船の舳先につける船首旗の事であり、正しくはユニオン・フラッグ（Union Flag）と言うらしい。地区大会を途中で退席し京都観光。そして、夜桜を鑑賞し「割烹・京新山」で舞鶴東ロータリーのメンバーと懇親。窓から満開の桜を見ながら、畳の敷かれた座敷で日本酒を酌み交わす。正に「日本」そのものでした。初めて会った人と酒を酌み交わす、一期一会、忘れえぬ楽しい宵となりました。



4月2日〔月曜日〕

10:00 ユニバーサル造船見学
12:00 昼食
13:45 舞鶴市長表敬訪問
14:30 Vocational Study
市役所 Luci Hortop
警察署 Richard Kelvy
会計事務所 Tomas Case
新聞社 Emma Dance
17:30 ホテルに集合
18:00 ホームステイ先へ

9時30分 それぞれのホームステイ宅へ車で迎えに行く。歩く事が少ないのは、イギリスも同じなのかもしれないけれど、歩いて町を見る計画がない。ユニバーサル造船では、多くの社員さんに迎えられ、営業課はじめ5人の方の英語での会社概要の説明の後、作業現場を見学させてもらう。大きな敷地、所狭し・・・と殆ど目いっぱい作業されており、天気もいいが、景気も良さそうでも原料価格の高騰で、採算面では厳しいとか。誇るべき日本の造船は、GSEのメンバーにもワンダフルと写ったでしょうか。昼食。後でわかるがメニューはイギリス人好みに作られたようです。板前（ロータリアン）の挨拶もあり、女将のいろんなおもてなしありで、昼食がひとつの企業訪問になったようでした。

午後3時 企業訪問。市役所にて、2時45分打ち合わせの後、リチャード、ケリベリー氏と通訳、ロータリークラブメンバー高田、伊庭が東舞鶴警察署、副署長、担当署員、通訳等8名にて、舞鶴署の概要から犯罪の状況、捜査方法等、詳しく熱心に署員とやり取りされ、又剣舞、護身術の模範演技を見学し、その後東舞鶴駅前交番に出向き、交番の役割、又市民との接点について説明を受ける。次に、東港より警備体制等について、リチャード氏は熱心に勉強され、どの場所においても、時間不足となり、又大いに感激されてホテルへと送った。



4月3日〔火曜日〕

09:00 ホームステイ先よりホテルに集合

09:10 海上自衛隊岸壁集合

ミサイル艇にて体験航海

イージス艦見学

12:30 海上自衛隊総監部にて昼食

海軍記念館見学

16:00 ホテルチェックイン

17:30 例会 「さよならパーティ」

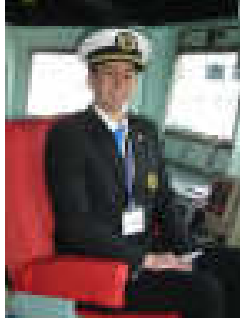
ホテル泊

ホームステイ最後の朝、それぞれ家族に別れを告げ、5名は荷物を持ち、8時半にホテルマ
ーレたかた に集合しました。フロントに荷物を預け、45分に出発し、50分に海上自衛隊
舞鶴地方総監部基地棧橋に到着しました。同基地所属のミサイル艇に乗艦し、波高 2M の
中を舞鶴湾外に向けて訓練巡航に出発致しました、30 ノットまでスピードを上げると、港
外の荒海で艇は上下動し、全員初体験に興奮の様子でした。10時に帰港し、基地に停泊し
ている”イージス巡洋艦・みょうこう”に招待され、護衛隊群司令・宮崎司令官と艦上で記念
写真を撮りました。その後、司令官直々に艦内を案内して頂き、艦内応接室での懇談の時
間を持って頂き、スチュアート団長以下全員興奮感激しておりました。昼食後、舞鶴基地
を後にし、ホテルに引上げ、午後は荷物整理、レポートの作成等、フリータイムを持ちま
した。夜 6 時よりホームステイ家族を交え、クラブ会員総出で「さようならパーティー」
を催し、お酒の酔いと共に、舞鶴の夜に研修生は別れを惜しみました。



DDG175イージス護衛艦 みょうこう 乗艦記念 19.4.3(火)





4月4日（水）

9：40 ホテル出発

10：13 JR 東舞鶴駅発（会長、幹事、国際奉仕委員長、財団委員長、通訳随行）

12：04 JR 京都駅着

13：30 王寺RCに引継ぎ チャーターバスにて王寺へ

9時 少し早いホテルに迎えに行くと団長のスチアートがロビーで待機していた。

9時10分にはGSEメンバーが手荷物をもってロビーに集合した。いつもながら集合時間には正確だ。ホストファミリーも集まり名残を惜しんでいる。手荷物を車に積み込みJR 東舞鶴駅に向かう。主な荷物は昨日宅急便で送ってあるのだが、結構重たい。駅に行く途中、見送りに向かうホストファミリーに出会った。駅にもたくさんのホストファミリー、ロータリーメンバーが見送りに来ていた。笑顔で別れを惜しんだ。ホームまで見送りをうけ、手を振り合いながら電車は出発した。車中は疲れも見せず、話し込んでいた。ペットボトルのお茶と水を用意したが、水が好まれたようだ。12時4分京都駅到着、京都駅中央改札口にて王寺RC 会長以下RCメンバーの出迎えをうけ、ホテルグランヴィア京都 15F のレストラン・グレイスガーデンへ。京都の眺望を満喫しランチバイキングを楽しんだ。13時30分 チャーターバスで王寺RCへと向かった。彼らに舞鶴の地はどう映ったのだろう。企業訪問の折、熱心に質問していた彼らの姿が目につかんだ。良い思い出となって欲しい。これからの健康と無事を祈るばかりである。

「ホストファミリーから一言」

「ナイス ミー チュー」

中野知子



実際のところ、GSE メンバーをお迎えすることになった、と聞いた時“えっ、何で又こんな時期に（年度末決算で超多忙な時）”と呆れてしまい“人の良いのもいい加減にして欲しいわ”と思ったりしたものでした。

予定を紙で見ている間は、成るようになる、ケセラセラ、という感じでした。正直、他人事で 顔合わせパーティー迄実感が湧きませんでした。

ところが、会場に足を踏み入れた途端、GSE メンバーと握手を交わしている内に私も、英会話 OK のような気分になり、顔が自然にほころびてくるのが分かりました。我が家でお預かりするルーシー嬢は、とてもいい娘さんで、いつも笑みを浮かべ、常に“アリガトウゴザイマス”と言い、花の本、人形の本を見せても“オーッ”と素直に感嘆の言葉を発し、飲み物は水のみ。階段の上がり下がりする足取りも軽やかで、とても爽やかでした。見習わなければならない所が沢山あり、「清風、我が家を駆けめぐる」でした。オオキニ、と キレイは覚えていてくれてるのでしょうか。

私の故郷料理である 丹後寿司 を出したところ、お代わりをして頂き、丹後の味もまんざらではないな、と自負致しました。

“さようならパーティー”、お見送りを終え、忙しい日々が終わりました。途端に夫婦でインフルエンザにかかり、アップアップしておりました。桜の一番綺麗な時期に寝込んでしまってとても残念。息子が 1 ヶ月、英国でお世話になりましたので、そのお返しが少しでも出来たかな、と自分自身言い聞かせております。

貴重な経験を有難うございました。

「 ホストファミリーから一言 」

沖泰隆



ミス・エマ・ダンスのホームステイを引き受けて、私と家内は本人が到着する迄、何を食べて頂けるか、一番心配しました。

いざ顔を見て「パンとライスと君の食べたい方を選択しなさい」と申しますと、「ライスがいいです」と返って来ました。

「朝は味噌スープを私達は食べているが、味噌スープは食べれるか。食べれなければ別にベジタブルスープを作ります」と申しますと、「味噌スープ」と返って来たので、毎朝和食で通しました。

ディナーについては「肉類が良ければ肉料理を毎晩用意します」と申しますと、「野菜が中心で、魚料理にして欲しい」との返答なので、これはやり易いと思いました。しかし、食卓に魚料理を出すと、やはり生魚、特に刺身は恐る恐る食べ、煮魚についてはどんな小さな魚でも「目がついた頭を見ると気持ちが悪い」と言っていたのにはチョットしたカルチャーショックでした。

又、ビール又はワイン、ウイスキーなど酒類は何を飲むかと尋ねると、「ジャパニーズ酒」と来たのには驚かされました。それも冷酒がいいと申し、かなりの量を「グッドテイスト」と飲んでいました。一晚京都から娘を帰らせ、「レッツゴウ、寿司バー」と言って寿司を提供し、後カラオケに連れて行ったところ、若者同士で英語の歌を歌い、盛り上がっていました。

シャイで人見知りな娘さんでしたが、お別れの朝には「マイファーザー、マイマザー」と抱きつかれたのには驚かされました。



G S Eのお手伝いをさせていただいて

リチャードさんとは、たった三日間の短い間でしたが、とても楽しく交流できて、忘れられないホームステイ受け入れになりました。はじめは警察官のかたとお聞きしていたので、堅苦しい人かなと心配していました。でもそんな心配もどこへやら、よくおしゃべりするし、茶目っ気たっぷりだし、好奇心旺盛でなんでもチャレンジするし、なんだか親戚の甥っ子が、ふらりと遊びにきたようで、気を使うこともなく、あわただしく過ごす内に、あっという間に時間がすぎた感じです。お見えになった最初の日、友達をまじえてホームパーティーをしたのですが、誰ともすぐになじんで、打ち解けた雰囲気になったので、あとはずっと気楽にいました。

舞鶴での受け入れ期間には、地区大会の参加もあって、本当に過密な日程で、若い方たちといっても、たいへんお疲れだなと心配になりました。できれば、もっとゆっくりわたしたちと普通の生活を共にして、普通の日本の生活をじっくり味わっていただけたらと思いました。リチャードさんは、たくさんの写真やスライドで自分のご家族や仕事を紹介してくれましたが、そこには家庭や家族のことをなにより大切にしている感じが感じられました。リチャードさんは、日本の街がきれいなこと、日本人が親切にもてなしてくれること、そして日本には犯罪が少ないことに、たいへん感心していました。短い間でも、こんな交流が積み重なれば、本当の国際理解ができるのかなと思った体験でした。京都でのお別れパーティにも参加して名残を惜しむことができたこともよい体験でした。ロータリーのG S Eについては、これまで何も知りませんでしたが、ロータリーはいいことしているんだと、あらためて思った次第です。

「 ホストファミリーから一言 」

稲田ケイ子

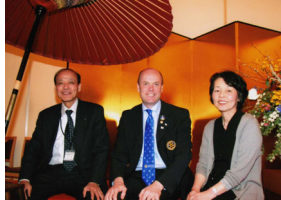


めまぐるしい日々の生活の中で なんの準備もなく ホームステイをお受けすることはとても恥ずかしいことでした。たまたま 保育園の「英語で遊ぼう」のスタッフとして来てくれている姪たちに協力してくれることを頼んで なんとかお引き受けするることになったのですが なにぶん仕事也多ければ 家事も手抜きで そのうえ孫たちが足元をチョロチョロつきまとうという毎日ですので トーマスさんも「なんとひどい家だ！」と驚かれたことでしょう。でも そんな中で 孫が歌ったり 踊ったりで その踊りというのは「ふろしき忍者」という題名の ふろしき頭巾のちょっと間抜けな忍者の踊りでしたが、以後 孫はサムライと呼ばれて トーマス君とよい友達になれました。とても賑やかな夕食のひとときとなり、言葉は通じなくても ころころや思いが通じれば 案外楽しく過ごせるものなんだわ・・・とほっとしたことでした。姪や孫たちのおかげで 大人の緊張をほぐしてくれたのでした。

いつの時もあとで思うのですが、心配するより 遊べ遊べ 学べ学べ と思うことです。ホームステイはとても楽しいことでした。そのことを含めて いろいろのご縁に会わせていただいたことに感謝いたします。また生活の礎になることと思うようにもなりました。ご縁をいただいた多くの人々にありがとうございましたとお礼を申し上げます。

「 ホストファミリーから一言 」

山元 勉



舞鶴到着の夜は歓迎会に妻と一緒に出席し、団長の S t e w a r t と初顔合わせ。身振り、手振りのコミュニケーションで意思の疎通を図るももどかしい限り。いさざの躍り食いを果敢にチャレンジし、みごとに飲み込みました。二日目の夕方より我が家にホームステイ、妻と息子そして、義妹夫婦で食事、歓談する。何しろ、外国人のホームステイは初めてなので、色々とメニューを考えて並べましたが、こちらが思ったほど、箸、いやホークは進まなかったようです。四日目の夕方は帰省中の娘、孫たちの大勢で、団長の好みをきいて市内の焼肉店にくり出す。ビールを飲みながらわいわいがやがや盛り上がる。たった三日間の短いホームステイで充分なことも出来ませんでした。貴重な体験をさせていただきました。G S Eの団長として、何週間も仕事を離れて来日というご苦勞に、奉仕の精神の神髓を感じました。

王寺滞在記録

2007 年 4 月 4 日～4 月 10 日

ホストクラブ

王寺 RC

会長

西谷雅孝

幹事・G.S.E.委員長

鈴木貴晶

<スケジュール>

4 月 4 日（水曜日） 晴れ

- ・ 舞鶴東 RC より引き継ぎ
- ・ 西和警察署訪問
- ・ 王寺町役場 植田町長表敬訪問
- ・ 歓迎会

午前 9 時、王寺を小型貸切バスにて出発。クラブ会長、幹事（G.S.E.委員長兼任）、直前会長、会員 3 名と通訳、の 7 名にて京都へ。

京都ホテルグランビアにて舞鶴東 RC より引き継ぎ、昼食を共に必要事項の確認。昼食後、チャーターバスにて移動と思いきや、突然「京都タワーに昇りたい」とのリクエスト。予定時間を気にしながら、京都タワーより京都の町並を見学後、いよいよ目的地、地元西和警察署へ。西和警察署では、地域課長が出迎えられ、署長室にて、署長（前任県警本部捜査一課長）、副署長、地域課長と通訳可能な署員の方を入れ、紹介後、質疑応答。やはりここでは、刑事のリチャードさんが熱心にメモをとりながら、質問。予定時間をオーバーしての、かなりのものでした。王寺町役場では、町長室にて植田町長を表敬訪問。王寺町で限定 300 しか作られなかった達磨の焼き物を記念品として、G.S.E.メンバー全員がいただきました。午後 5 時、信貴山へ会員が営む料理旅館みよしへチェックイン。午後 6 時より、歓迎会を開催。G.S.E.メンバー一人一人がプロジェクターを使い、自己紹介。王寺 RC メンバーと楽しいひと時を過ごす。京都宮川町より、舞妓お二人が大いに華を添えて下さりました。この夜、G.S.E メンバー全員がみよしにて宿泊しました。

ホスト会員	メンバー
岡嶋 雅司／料亭	Stewart Cursley／団長
西谷 雅孝／建築設計業	Luci Hortop／団員 Emma Dance／＼
森近 泰夫／ガス総合設備工事業	Thomas Case／＼
鈴木 貴晶／仏教	Richard Kelvey／＼



4月5日（木曜日） 晴れ

・ パナソニック工場見学

滋賀県草津市にある松下電器産業株式会社の冷蔵庫・エアコンの工場を見学させて頂きました。本来ならば、セキュリティーの関係で見学はさせて頂けないのですが、会員の中に松下の販売店をされていた方がいましたので、OK でした。工場には日本国旗とイギリス国旗を掲げて頂き社員の皆様に拍手で迎えて頂き G.S.E.の皆さんは感激をされていました。

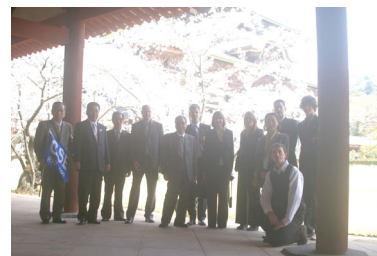
午前中は松下創業者の説明から経営状態から色々と説明を DVD を見ながらすべて英語の説明で（もちろん DVD も英語です）、団員の皆様も突っ込んだ質問をされて、かなり会社側もオープンにお答えをして頂きました。その後、冷蔵庫の工場を見学。そして昼食を頂きました。昼食も彼らに合ったメニューを考えて頂き、皆さん美味しそうに食べていました。午後より、エアコンの工場を見学させて頂き、その後質疑応答で、ここでもかなり、団長さんのスチュワートさん、税理士のトーマスさんがかなり質問されていました。G.S.E.5 名の方の役に立ったものだと確信しております。そして、出発の時には門の前まで会社の社員さんが（約 100 名はいらっしゃったと思います）旗を持ってお見送りして下さいました。私達ロータリアンはもちろん、G.S.E.の方々もビックリで、松下さんのお心遣いがすごく感じられました。失われていっている日本人の人をおもてなしする心を感じさせて頂いた見学でした。日本人の心意気を知って頂けたと思います。



4月6日（金曜日） 晴れ

- ・ 奈良市役所
- ・ 東大寺
- ・ 春日大社

昼のお弁当を積み込み、出発。本日は奈良市役所から東大寺、春日大社を訪問。予定時間に奈良市役所に到着。福井副市長、文化観光室長、文化観光課振興係長の出迎えを受ける。奈良市の現況と文化財が多数存在する市の対応や、観光事業について説明が在り、後質疑応答となり自治体勤務の luci と団長が主に質問し、少々予定をオーバーしながらも丁寧に対応して頂く。後観光課の案内で東大寺を訪問。参道で毛が生え替わりつつある鹿に鹿せんべいをやり、鹿の集団に追いかけられビックリ。東大寺では狭川さんが対応して下され、特別に大仏様の台座に上がらせてもらう。皆は興味深そうに説明に聞き入り、ゆっくり時間をかけて拝観。銘々カメラに記録、終わるとお昼を少々過ぎている。観光課の方に鹿が余り近寄らない場所に案内して頂き、ゴザを敷き用意したお弁当でお昼とするが、一匹の鹿が頻りにまとわりつく。晴天の下、桜と鹿と芝生を眺めながらのんびりと昼食。休憩の後、春日大社を参拝。神社でじゃ遷都 1300 年に合わせ、説明を英語で出来るように勉強中と言う事で、神職と巫女さんが英語で説明をし案内。その神職は数年前に当地区より G.S.E.の一員として、デンマークへ派遣された経験の持ち主で、色々と丁寧に説明をしてもらう。御本殿まで入れて頂き、正式参拝の後お神楽。1300 年前より現在まで守り伝えられてきた信仰と建物や神楽を興味深そうに眺め質問。東大寺、春日大社を心ゆくまでゆっくり参拝し帰路につく。途中喫茶店でコーヒータイトム。出来るだけゆっくり・ノンビリをモットーに行動。天候に恵まれ奈良の春を満喫した一日。



4月7日（土曜日）　くもり後雨

- ・ 法隆寺
- ・ 信貴山

どんよりとして天候の中、法隆寺へ出発。広々とした参道を歩き、南大門をくぐり、境内へ。日本最初の世界文化遺産の地だけに、G.S.E.メンバーも前日の東大寺とは違った雰囲気に興味津々の様子。境内を間中僧正がご案内下さり、仏像、建物の古さに驚きを見せ、銘々写真を撮り、熱心に説明に聞き入り、境内をのんびりと見学いたしました。その後、リチャードがホームステイしている信貴山成福院へ。到着後、お抹茶と和菓子にて休息。昼食は、精進料理にチャレンジ。蕎麦の蕎麦のテンプラは全員苦手のようなでした。昼食後、雨が降りしきる桜並木の参道を歩き、本堂へ。本堂正面では参詣者の見よう見真似で、鰐口を打ち、賽銭を入れ、神妙な様子で合掌をしていました。本堂内陣にて、本尊毘沙門天王と寺の歴史を説明いたしました。その後、成福院にもどり、ティータイム。各々が雑談をとり、休息。翌日のフリータイムに備え、打合せ。全員が大阪へ行くことに決定。



4月8日（日曜日） 晴れ

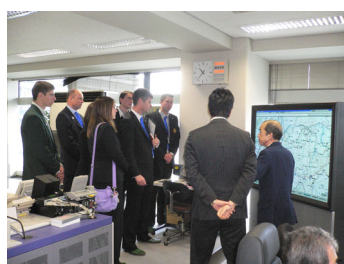
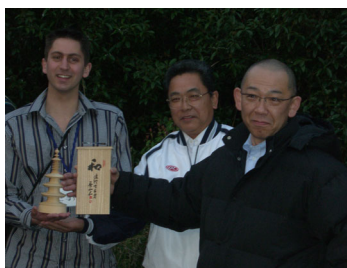
・ フリータイム

ホストファミリー宅より、それぞれ JR 王寺駅、10 時集合。団長は通訳と、リチャード・トーマス組、ルーシー・エマ組には会長のご息女お二人が付き、三組に分かれて王寺駅より電車にて大阪難波へ出発しました。帰着は、王寺駅に午後 8 時と決めておりましたが、結局、リチャード、トーマス組が女性チームと合流。大阪リーガロイヤルホテルにて会長が夕食の接待。リチャードとトーマスを迎えに車でホテルへ。



4月9日（月曜日） 晴れ

午前 9 時 各ホストファミリー宅から、王寺駅前交番にて集合。イギリスでは、交番が無く、交番を見学。西和警察署地域課長と通訳の署員の方も来られ、交番の在り方や現況を説明。その後、地域課長の先導にて奈良県警察本部へ出発。県警本部前に広報担当の方が出迎えられ、県警本部内、生活安全部長坪井警視正、同参事官 葛本警視を表敬訪問の後、通信司令官を見学。その後、奈良県警機動隊本部へ移動。屋外にて白バイ隊、機動隊の訓練を見学いたしました。午後よりは奈良新聞社を訪問し、甘利代表取締役、武智企画部長と歓談させて頂きました。夕刻よりの送別会は樋口ロータリー財団委員長の廣瀬神社にて夜桜を見ながらのバーベキューパーティーを催し、記念品として法隆寺様の特別なお計らいにて非売品の木製の百萬塔のレプリカと耕田前管長直筆の箱書きにて贈呈しました。



4月10日（火曜日）晴れ

午前9時半に王寺出発。貸切バスにて京奈和自動車道、京滋バイパスを經由し、草津ICにて福井あじさいロータリークラブ様へ引き継ぎました。



2006～2007年度GSE受け入れクラブ報告書

王寺ロータリークラブ

会長 西谷 雅孝

この度、私共王寺ロータリークラブはイギリス1200 DISTRICT よりスチュアート・カースリー団長をはじめとするGSEチーム5名をお迎えし4月4日から10日までの7日間お世話を致しました。王寺ロータリークラブ会員一同は、GSEの皆様との国際親善と友情の分かち合える機会を得ましたことを、大変嬉しく思いますと共に貴重な経験をさせて頂きました。

当クラブはGSEの受け入れは今回で2度目であり前回資料を参考にしながら準備をして参りました。私共が企画致しました1週間の研修計画は、GSEメンバー到着時の団長からの意向も十分に反映できる計画であったことが大変慶んで頂き、何よりも嬉しく思いました。

今から1300年前、日本の故郷とも言うべき首都であったこの奈良の地を象徴する様に、日本で初めて世界文化遺産に登録された法隆寺をはじめとする東大寺、春日大社、信貴山毘沙門天など、たくさんの貴重な歴史的遺産がある、この古都の歴史・文化・伝統と日常の生活にふれ、楽しく満喫して頂いたことと思っております。

又、研修場所に於きましても、王寺町、奈良市、奈良県警本部、西和警察署、奈良新聞社、パナソニック滋賀工場等にご協力・お世話になりましたことを御礼申し上げます。さらには、ホストして頂いたファミリーの皆様にもお世話をお掛けし感謝致しております。

最後に、スチュアート・カースリー団長をはじめとするGSEチーム皆様方にとって、日本での研修の成果を帰国後必ずや各々職業を通じて役立てて頂くことを祈念申し上げ報告と致します。



2006～2007年度GSE受け入れホストファミリー報告書

西谷 恵美子

英国人女性をお迎えして

私たち家族は、ルーシー・フォトップさんという英国人女性の方が来られるということで、純日本家屋の和室を用意致しました。そして家のお掃除も、いつもより念入りに、お花なども多めに飾り準備致しました。少々不安もありましたが、来られるのを楽しみにしておりました。当初はルーシー・フォトップさんをホストさせて頂くことになっていましたが、エマ・ダンスさんのホスト先の急な事情により2日目からは2人の素敵な女性をホストさせて頂きました。

彼女達は、とても礼儀正しく、思いやりのあるお二人でした。心配しておりました食事も、刺身とみそ汁以外は何にでもトライされて楽しんで頂いた様子なので、ひとまずほっとしました。お箸の作法も心得ていて、使い方が上手なのに驚きました。夕食の後は、娘の通訳で家族みんなと夜遅くまで、おしゃべりをして過ごしました。お互いの家族のことや、日本や奈良のことイギリスのことなど、写真と身振り手振りでいろいろ話しました。

彼女達は、イギリスでもとても古い地域から来られていて、教科書などに載っている地域や人名が次々と出て来て驚きました。娘のいない時は、私のつたない英語を熱心に聞いて下さり何とか話しができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

フリータイムの日は、娘二人と4人で大阪にショッピングにも出かけて行きました。娘達は昼食をごちそうになり、皆いろいろ買い物をして帰ってきました。

最後の日は、お別れ会を兼ねた王寺ロータリークラブのお花見でした。

みんな大いに盛り上がり、春の宵はにぎやかに過ぎていきました。

わずか1週間たらずの滞在でしたが、爽やかな風と楽しいひとときを我が家に戴けたことに感謝し、いつか彼女達を訪ねてイギリスに旅する日がくることを楽しみにしています。



GSE 英国人 Thomas Case 氏 28 才を お迎えして

年寄り二人、犬一匹（マルチーズ）の我が家に、GSE 受け入れの OK の返事を軽々しくさせて頂いたものの、さて どの様な扱いをするものなのか、まったく解らないまま、4 月 4 日までの一ヶ月余りの間、取り越し苦労をしておりました。取りあえず、朝 夕 一週間の献立を考えて見ました、ところが受け入れスケジュール表を頂きまして、一週間とお聞きしておりましたが、正味夕食は 3 日程度でほんと致しました。

さて 4 月 4 日の歓迎会で紹介があり、なんと THomas を 登馬数 と日本語で上手に書いて胸に掛けて、素敵な笑顔で話しかけてくれましたので今までの不安が一気に 吹っ飛んだ様な感じでした。そんな事で、翌朝我が家へ来た時には、お帰りなさいと迎えました。

献立も色々考えただけで、結局普通私たちが食しているものを、おいしいと云ってくれました。食べ物で嫌いなものの No1 はと聞くと（イカ）No2 は（エッグ）え・・・卵、それは困ったと一瞬思ったが、出す前に聞いて良かったです。

ビールが大好きで、お腹がいっぱいと、云いながら飲みっぷりの良い事、コニャックをグラス一杯になる程入れてあげると、オットトと言いながら、嬉しそうに、飲み干して、上機嫌で我が家のカラオケで、ビートルズの曲を 3 曲程歌っていました。

不自由な言葉でも、話してる内に、何とか通じるものですねー

26 才の（fiance）で、同じ職場の（イギリス、上海）ハーフのお嬢様で、2008.6 月に結婚式をするとの事でした。ご家族と一緒に写っている写真を嬉しそうに見せてくれました。登馬数さんは今は、公認会計士のマネージャー 35 才でボスを目指して頑張るそうです。

我が家で一番登馬数さんの、お気に入り是一人息子レオ（マルチーズ）でした。登馬数さんが帰って来て、朝出かけるまで、一緒に行動していました。

お役に立つ事は、何も出来ませんでした、私達は思わぬ経験を、させて頂きまして有難うございました。



G. S. E. ホームステイの反省

スチュアート・カースリー団長をお迎えをして、会話に大変苦勞をしました。一日目からインターネットを外国（母国）に入りたい事で気持ちが通じず、もののみの郷 老人施設に行かれ仕事をされていた。毎朝食時に洋食スタイルで食事されるのを、妻が箸を用意していたが、急にナイフを出すと箸とナイフを使って食事されていた。思わず手まねきで説明をすると、笑顔で表情があったのでホッとした。朝食はエイトオ'clock、と伝えると、サンキュウの返事で、これで安心とホッとしました。毎日共に、日程を消化して行く中で、ロータリアンは訪問先での歓迎に素晴らしいものに感動させられました。企画から交渉と実行、行動に対し感謝申し上げます。



MR. Richard Kelvey をお迎えして

我が家は、一般家庭とは違い宿坊寺院ですので、食事と部屋数には不自由しないので助かりました。リチャードさんは、警察官（刑事）とお聞きしていたので、少々緊張しておりましたが、お会いしてみますと、笑顔の素敵なジェントルマンで一安心。

初日の夕食は、家族と寺院に住み込みで働いております僧侶をはじめ、従業員、ゲストとして今回お世話になりました奈良市役所より薮内さんと通訳の高橋さんをお招きして、歓迎会をさせていただきました。5泊6日間、寝食だけではありましたが、私の知らぬ間に若い僧侶と仲良くしていたようで私よりも僧侶たちの方が良い経験になったと思います。



GSE を迎えて



福井あじさいロータリークラブ

会 長 長井 眞見

幹 事 大島 友治



この度、私達福井あじさい RC で GSE の受入をするにあたり、昨年の秋に GSE 受入の為の GSE 特別委員会を発足させてその対応にあたってきました。何しろ初めての経験でありどのように対処すべきか悩みましたが、幸いにも私達のクラブに以前他の RC に在籍の折、GSE の団長をされてフィンランドへ行かれた経験のある淡島会員がおられたので、彼に GSE 委員長をお願いし、この度の GSE 受入に万全を期してあたることができました。4 月 10 日の 11 時頃に奈良の王子 RC より GSE メンバーを受け継ぎ、夕方 18 時より歓迎の夕食会を関係者で行いました。1 日目は顔合わせと今後のスケジュール等の打合せでおわりました。2 日目は東尋坊、越前海岸の観光と温泉体験をして会長の私の家で田舎料理等の夕食会を開き、大変盛り上がり楽しい一刻を過ごしていただきました。3 日目午前中はボケイショナルスタディーということで、それぞれが福井新聞社、F B C 放送、福井市警、福井県警防犯課、片岡会計事務所、福井県庁観光振興課、福井市観光振興課等を訪問し、活発に意見交換をしてその目的を果たしたように思いました。そして、午後 3 時過ぎより福井市市長表敬訪問を行い、坂川市長と楽しく交流を行いました。4 日目は越前市にある仁愛大学を訪問し、その後漆器や和紙の会館を見学し夕方からは私達あじさい RC の 6 周年記念例会式典並びに祝宴に参加していただき会員の皆さんと交流をしていただきました。GSE の皆様も大変喜んで私達福井あじさい RC の会員と共に楽しく春の夜の一刻を過ごされました。5 日目は福井市の春の桜まつりの越前時代行列の見学、6 日目は勝山の恐竜博物館の見学とショッピング、そして夕食からお別れの夕食会に参加していただき、2 次会ではカラオケで大変盛り上がり最後の福井の夜を楽しんでいただきました。7 日目、4 月 16 日のお昼に次の受入れ京都モーニング RC に烏丸京都ホテルで引継ぎを行いました。最初 GSE の受入れに対し何度も計画を練り直すなど大変な思いもありましたが、終わってしまうと彼らとの交流に有意義な経験を与えていただいたとの感謝の思いと彼らとの夜遅くまでの交流の疲れも大変ころよく感じている次第です。

2006～'07年度 R.I.D.1200 G.S.Eチーム.

受入スケジュール

ホスト
クラブ

福井あじさい R.C.

会長 長井眞見

幹事 大島友治

受入特別委員長 淡島 洋

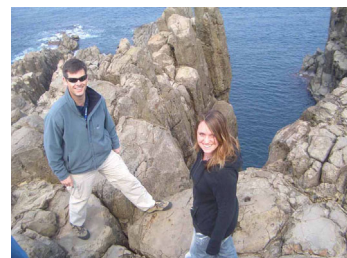
4 月
10 日
火 曜日

王子RCより受け継ぎ草津サービスエリア
越前海岸・北前船主の館右近家
歓迎顔合わせ(日下部)



11 日
水 曜日

東尋坊(遊覧船)・雄島一周
越前海岸
温泉体験(越前町 いさりび)
夕食(勝鬨寺・会長宅)



12 日
木 曜日

ボケイショナル スタディー

福井新聞社・FBC

福井市警・福井県警防犯課

片岡会計

福井県庁観光振興課・福井市観光振興課

坂川福井市長表敬訪問



13 日
金 曜日

仁愛大学

越前市長表敬訪問

パピルス館(岡田)・漆器会館・安宅や(漆器)

福井あじさいR6周年記念例会へ出席(48名)



14 日 自由行動
土 曜日 福井春祭り観戦

夕食(焼肉すみか)



15 日 勝山恐竜博物館
日 曜日 越前武人形の館
バッティングセンター・卓球
フェアウエルパーティー(厚生年金会館)



16 日 団長のみ東京へ(小松空港8:00発JAL1270)
月 曜日 京都着 京都モーニングR.C.へ引継ぎ
からすま京都ホテル(引継ぎ式)



私は、トーマスをホストしました。

片岡 道雄



最初に、私の方から、日本には税理士制度と公認会計士制度があり、それぞれの役割の違いについて説明を行いました。つぎに、トーマスの方から、イギリス公認会計士制度について説明を受けました。特に日本との違いは、クライアントとの関係は何の利害関係もない事と、日本は資本金5億円以上の法人であるのに対して、イギリスは売上高1億2千万円以上の事業者（法人、個人は問わない）について公認会計士の監査を求めている。税制に関しては、イギリスは申告が決算後1か月以内、個人の申告は1月末決算で4月5日が申告期限、消費税の税率は17%、日本の所得税にあたる個人所得に対する課税最低限も、イギリスの方が厳しくなっているようです。その他、イギリスと日本の税率の違いとか税制の歴史、公認会計士の監査手法、税理士が行う税務申告等について話し合いを行いました。



4月12日午前10時より、まず最初は福井放送（FBC）を視察訪問しました。同社報道制作局部長の清田清二氏の案内で、約2時間にわたり社内業務の説明を受けながら見学しました。同社は昨年5月よりデジタル放送を開始したこともあり、昨今特に注目されているいわゆる「地デジ」についての説明に、GSEメンバーも大変興味深く聞き入っていました。特に、毎日夕方放送されている「リアルタイムふくい」のセットのところでは、キャスター席に座ってポーズを取り記念撮影をしていました。そして、そのスタジオから当日の夕方6時過ぎのローカルニュースでGSEの訪問を取り上げてくれました。また、番組を収録する同社で一番大きいスタジオでは、デジタルTVカメラをデモ操作させてもらいデジタルならではのハイクオリティな映像に驚いていました。昼食後、1時より福井新聞社を表敬訪問しました。同社の吉田哲也社長は福井ロータリーの

会員ということもあり、手厚い歓迎を受けました。記念撮影の写真でオリジナルのタブロイド紙風にしたものをプレゼントしてもらい全員感激していました。同社は、2000年にハイテクな新社屋を建設し、その際編集の効率化、スピード化を図るべくワンフロアに編集業務を集約させ、地方紙としては全国でも高い評価を受けている新聞社です。

その編集局フロアで各セクションの作業を見学しながら、同社編集局長代理四戸（しのへい）氏の説明を受けました。その様子が翌日の同紙の記事として掲載されました。

その他、見学用に展示してある「新聞おもしろ館」や輪転機が回る印刷現場も見学することができ、大変中身の詰まったボケショナルスタディであったと思います。

私は、ルーシーをホストしました。

淡島 洋



彼女リクエストは、観光行政担当者と面談したいとありましたので、福井市役所の観光開発課へコンタクトを取りました。丁度福井市では春の時代行列を直前にして、市のスタッフ全員祭りの準備をしていました。その、準備と一緒に手伝いながら、質疑をしました。彼女には見るものが、とても新鮮で日本の古くからの行事に深く関心を寄せていました。

次に、福井県の観光振興課を訪問し、小竹正雄企画幹をはじめ、荻野真治課長、担当の山岸正直主任に対応していただき、観光行政について細微にわたり質問していました。たとへば、福井県の観光に対するコンセプトや方法、また、予算額、民間との相互協力についてなど、非常に熱心に尋ねていました。山岸氏も、てきばきと要領よく対応したて頂きました。

王子 RC から引き継いだとき、彼女は少し風邪気味でしたが、すぐに回復してとても楽しい一週間を過ごせました。ただ、食事はあまり日本食は進んで食さずに、時折、焼きそばヤスパゲッティー、また、昼食はマクドナルドのハンバークを食べました。飲み物はほとんどペットボトルの水でした。将来彼女も結婚するでしょうが、その時は是非出席したいです。



去る、4月12日（木）午前10時より受入れ英国人警察官リチャード・ケルベイ氏のボケイショナルスタディが始まりました。メンバーはリチャード氏、我クラブの幹事大島氏、会員の前田氏、福井警察署生活安全課の山根さん、福井地区少年警察協助員5名、通訳の野瀬さん(福井署所属)そして私樫尾です。10時に福井駅前交番に集まり全員で青少年指導パトロールに出発しました。まず新しい福井駅構内をまわり駅前商店街、中央公園と駅前地区を中心に活動しました。英国では警察ボランティアによる補導はなく、警察ボランティア自体が存在しないということです。11時前に駅前交番に戻り、所長さんに外国にはない交番制度についてリチャード氏は質問を繰り返していました。次に近くにある福井県警本部を訪れ広報担当官より警察組織、通信司令室、交通管制センターの説明を受け、福井県警の実情を理解しました。最後に本部の地下にある福井少年サポートセンターに行きました。ここはリチャード氏が日本での青少年犯罪問題への取り組みを知りたいという希望をふまえて福井署の計らいで実現しました。ここには臨床心理学士が常駐し、心のケアを中心に悩める青少年に接して、自分で立ち直るのをサポートするとの事です。リチャード氏があまりに熱心に質問するので12時予約のお昼御飯に遅れてしまいました。因みに英国では、警察も消防（救急）も電話は999番です。

京都モーニング滞在記録

2007/4/16(月)

時間	内 容
12:00	からすま京都ホテル着
12:30	あじさい RC と昼食
17:30	ホテルロビー集合
18:00	銀座ライオンにて会食 からすま京都ホテル泊

GSE 受け入れ

4月16日(月) GSE 受け入れ初日

携帯電話がブルブルと鳴って、福井あじさい RC から連絡。昼の12時に「からすま京都ホテル」に到着とのこと。ついに GSE チームが京都にやってきます。昨年の11月に「第1回 GSE 受け入れクラブ連絡会議」を行ってから5ヶ月が経っています。準備に奔走したこの数ヶ月が思い出されます。まもなくバスが到着。地区大会で見慣れた福井あじさい RC のメンバーと共に GSE チームがバスから降りてきました。こうして私たち、京都モーニングロータリークラブの GSE 1 週間が始まりました。

昼食を GSE チームと福井あじさい RC メンバーと共に頂いた後、福井あじさいメンバーと GSE チームの別れの挨拶を見て、とても素晴らしい交流があったのだろうと感じました。確かに GSE チームを京都が引き継ぎました。福井あじさい RC の皆様お疲れ様でした。

今日の夕食は、ホストファミリーとの顔合わせです。ビアホールを予約しました。外国の人たちにも口に合うだろうと思ったら、刺身や生ものの前菜が多く、急いでソーセージやポテトなど追加注文しました。GSE チームが嬉しそうに飲んだり食べたりしてくれたので少し安心しました。お決まりのように二次会カラオケへ行ったのは云うまでもありません。



2007/4/17(火)

時間	内 容
8:00	朝食
9:15	ホテルロビー集合
10:00	堀場製作所着
11:40	昼食
12:15	堀場製作所出発
13:00	月桂冠見学
14:30	月桂冠終了
14:40	十石船体験
17:00	ホストファミリー出向かえ ホームステイ

GSE 受け入れ

4月17日（火） GSE 受け入れ第2日目

昨夜のカラオケの疲れも見せずに全員笑顔で集合。本日は、「堀場製作所」のご好意で送迎バスまで手配頂きました。同社の代表取締役社長は我ロータリークラブのメンバーでもあるのですが、同行したメンバーも初めて訪問する者が多く、やっぱり凄い企業やなぁと感心しきりでした。昼食までご馳走になり本当に有難うございました。お世話頂きました堀場製作所の皆様に紙面を借りて御礼申し上げます。

次の訪問先は「月桂冠大倉記念館」です。ここでも、ロータリーの友情をもって大歓迎頂きました。有難うございます。GSE チームの目には、日本酒製造の過程はどのように映ったのか、とにかく試飲には全員ニコニコ笑顔でありました。

サクラの季節には少し遅かったですが「十石船」も体験してきました。ルーシーは船頭さんの半被が気に入り船に乗っている間、着せてもらいご機嫌でした。春の風は少し冷たかったですが素晴らしい一日でした。



2007/4/18(水)

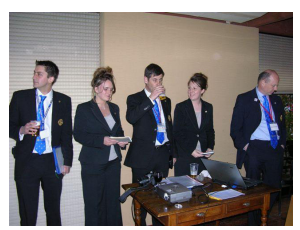
時間	内 容
8:00	朝食
9:00	集合場所(京都新聞社)
9:30	京都新聞社見学
11:00	西陣織会館見学
12:30	昼食ガーデンパレス
13:00	本願寺見学
15:00	西利漬物見学
16:00	ワコール見学
	ホームステイ

GSE 受け入れ

4月18日(水) GSE 受け入れ第3日目

昨夜はホストファミリー宅初日でした。「みんな良く眠れたのかな」の心配をよそに「京都新聞社」に元気な姿で集合。本日の随行者に我がクラブの才女、岸 律子さんがおられたのが幸い、ジャーナリズムや新聞業界の裏ネタにまで渡る通訳を見事にこなされていました。新聞記者のエマに京都新聞の方がウィリアム王子のスキヤンダルについての新情報があれば提供して欲しいとのコメントに一同大笑いしました。

西陣織会館では着物ショーに見とれ、鶴屋吉信ではお茶会もしました。昼食はガーデンパレスで済ませて、いざ本願寺へ。我がクラブの林 研志さんをお願いして修復工事中の立ち入り禁止地区にまでご案内頂き、黒書院、白書院なども見学させて頂きました。本願寺を後にして、第2650地区平井ガバナーの西利漬物本店を表敬訪問させて頂き漬物とワインをご馳走になりました。ルーシーが平井ガバナーと趣味の写真の話で盛り上がり「ライカだ、ハッセルだ」といつまでも楽しそうに話していたのが印象的でした。最後に「ワコール」を訪問。女性の下着の歴史や華やかな商品に見とれていました。



2007/4/19(木)

時間	内 容
7:30	例会場着
8:00	例会参加
9:20	例会場出発
10:00	お香体験 負野薫玉堂
12:30	昼食 ビックリドンキー
13:30	和服体験 (エ・マーサ)
15:00	市比賣神社、雅楽鑑賞
16:30	塵外室茶会体験
18:00	クラブ歓迎会(ノアノア)
	ホームステイ

GSE 受け入れ

4月19日(木) GSE 受け入れ第4日目

本日は、例会見学です。元自衛隊イラク先遣隊 佐藤正久氏のスピーチを GSE チームに通訳してくれたのは我がクラブの堀場 厚さんです。専門用語が多いのに難なく通訳されているのはさすがだなあと感心。例会終了後、毛利 隆志会員のご配慮でお香体験に出かけました。香道は我々日本人でも珍しく初めての体験でしたが GSE チーム全員がちょっとしたゲーム感覚に大喜びでした。団長のスチュワートは畳が苦手な様子で長い足を持て余していました。昼食は、元廣哲也会員のビックリドンキーに寄せて頂き大盛りハンバーグステーキにみんな大喜びでした。昼食後、青江伸泰会員による和服体験で艶やかなルーシーとエマに対してサムライのリチャードとスチュワートの写真を見てください。和服を着て、飛騨富久会員による雅楽の手ほどきに、エマは横笛を見事に吹きこなして全員の拍手喝采を浴びていました。山本 勝会員のお茶室をお借りして茶道のお手前を体験。ここで和服から洋服に着替えると知ったルーシーとエマは、駄々っ子のようにいつまでも着物にしがみついていた。

クラブ歓迎会の会場は季節も葉ザクラに代わって気持ちのよいガーデンテラスのお店「ノアノア」で行われました。立食パーティーの形式で和やかな雰囲気の中、GSE チームの自己紹介(プレゼンテーション)が行われ、美しいイギリスの風景や家族の写真を誇らしげに紹介する彼らに一層の親しみを感じました。

その後、カラオケに行ったことは云うまでもありません。



2007/4/20(金)

時間	内 容
8:00	朝食
9:30	京都市役所表敬訪問
9:50	市役所市会議場見学
10:00	救急指令センター見学
11:00	京都府警見学
12:30	昼食御所で(あきしの弁当)
14:00	京都御苑
15:00	マンガミュージアム
16:00	寺町京極・錦市場
18:00	夕食・牛しゃぶ (いふじ) からすま京都ホテル泊

GSE

4月20日(金) GSE 受け入れ 第5日目

昨日でホームステイも終了。チーム全員の荷物と共に京都市役所に集合。荷物だけは先にホテルに預けることにしました。市役所には友人の市議員も駆けつけてくれ、役所側も緊張した雰囲気です。エマがウェールズの市長から京都市長に記念品を託されてきていましたので、記念品の交換を行いました。市会議場も見学しました。消防署でも制服組の幹部らしき方々がずらりと並んでの出迎えに驚きました。救急指令センターでは女性隊員の堪能な英語での説明にチームも納得。今日は通訳に京都在住のマイケル・ジャメッツさんも同行されていますので通訳は完璧です。京都府警では府議員も参加され大勢の警察官の出迎えを受けました。指令センターでの説明に警察官であるリチャードも専門的な質問を投げかけて、日本とイギリスの犯罪に対する取り組みの違いや共通点について真剣な話が続けていました。今日も天気は素晴らしく、京都御苑で昼食です。坂根良枝会員のご好意で「あきしの弁当」を用意して頂きました。美味しかった。京都御苑を見学してからマンガミュージアムに着きました。紙芝居で「桃太郎」の変則バージョンを鑑賞？英訳出来ませんでした。(泣) GSE チームの女性陣は買い物をしたくて我慢できず、寺町京極と錦市場を散策し始め、男性陣はビール休憩です。夕食には名井聖介会員のお店「いふじ」にて彼らのリクエスト「牛しゃぶ」に舌鼓を打ちました。ご馳走様でした。



2007/4/21(土)

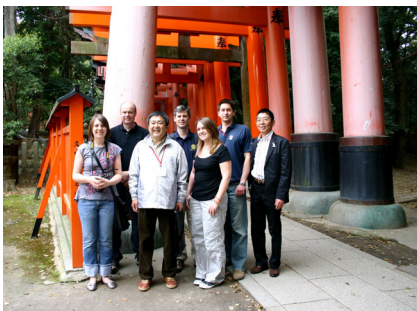
時間	内 容
8:00	朝食 一日フリータイム
9:00	伏見稲荷
13:00	昼食 お好み焼 京極・錦市場で買い物
17:00	GSE チームホテル着
18:00	さよならパーティー からすま京都ホテル泊

GSE

4月21日(土) GSE 受け入れ 第6日目

今日は、フリータイムです。自分たちで行きたいところを選んでもらいました。そこは、清水寺でも金閣寺でもなく、伏見稲荷神社でした。赤い鳥居が続く幻想的な写真が決め手だったようです。5人は元気で頂上までの道のりを制覇しました。日本人同行者は脱落組みも。昼食も彼らは「お好み焼と焼きそば」を選びました。その後は、やはりお土産を探しに昨日と同じ新京極と錦市場にチームは消えていきました。

「さよならパーティー」です。この1ヶ月滞在した各ロータリークラブから大勢の方に参加して頂きました。お世話になった懐かしい顔、顔、顔、そしてホストファミリーとの再会に GSE チームは大喜びです。平井ガバナーをはじめ地区 GSE 委員長の山本様にも出席頂きました。会場には GSE チームによる、日本滞在中の写真が映し出されそれぞれのクラブでの思い出話に華が咲きました。エマは雅楽体験での腕を見込まれて、「横笛」を飛騨富久会員よりプレゼントされ、早速、腕前を皆さんに披露していました。パーティーも終宴を迎え GSE チームとの別れを惜しみながら各クラブの皆さんがそれぞれの家路について行きました。皆様、有難うございます。そしてお疲れ様でした。その夜も遅くまで飲み、語り明かしました。



2007/4/22(日)

時間	内 容
----	-----

朝食

6:00	ホテルロビー集合
------	----------

6:30	出発式
------	-----

6:50	京都駅より「はるか」にて
------	--------------

9:00	関空着
------	-----

11:10	出国
-------	----

GSE

4月22日（日） GSE 受け入れ 第7日目

昨夜の疲れが少し残っている様子ですが全員集合。最後の記念撮影をしました。京都駅から「はるか」に乗り関西国際空港までの車中は思いのほか静かで、GSE チームも私たちもこの慌ただしかった日々に思いを巡らせているようでした。空港はいつものように出国する人たちで溢れています。無事に手続きを済ませて最後の食事を一緒にとりました。エマとトーマスはカレーうどんを注文。スチュワートは天ぷら蕎麦。日本食ともお別れです。ゲートの向こうでいつまでも手を振る GSE チームに「お疲れ様でした。無事にイギリスまでの旅を楽しんでください。ありがとう。」と心の中で叫んでいました。



「ホストファミリーより一言」

堀場 芳美

先日、エマさんというイギリスからの女性がホームステイに来られました。少しシャイな女性でしたが、2歳4ヶ月になる孫のおかげで我が家にすぐに打ち解けてくれました。孫はエマさんを遊び相手だと思ったらしいのです。といいますのも、5年前にロータリーの交換留学生として我が家にホームステイに来ていたアストリッドさんが、現在、東京の国際キリスト教大学で勉強しており、今もよく我が家に遊びに来てくれます。その彼女が、いつも孫と遊んでくれているので、孫は「遊んでくれるお姉さんが来た!」と思ったのでしょう。

私の娘も13年前にロータリーの交換留学生として、アメリカへ行かせていただき、大変よい経験をさせていただきました。その恩返しが出来ればという想いもあり、今回、ロータリーの国際奉仕活動に参加させていただきました。また、アストリッドさんのように、高校生活の時に一年間を通して日本の生活を体験したことで、日本が大好きになり、もっと日本で勉強したいという気持ちで頑張っている子を見ることで、ロータリーの国際奉仕の活動がとても意義のある活動であり、また、目に見えて成果を感じられる活動だと実感しております。このような活動に私も微力ながらお役に立てていることを大変嬉しく思っております。



「ホストファミリーから一言」

後藤 佳津也

私以外のホストファミリーの方々、また、このたびの GSE 事業に関わられた皆様本当にご苦労様でした。少々疲れはしましたが、楽しくて あっという間の一週間でした。もともと外国の人と会話とか出来たら楽しいだろうなと思っていましたので願ってもない機会を頂いたと感謝しております。何よりも我が家に泊まってもらったリチャードが楽しくてもいい人だったことが幸いでした。しかし、実際に家に来られるまでは不安でいっぱいでした。食事のこと部屋のこと寝床のこと、あと言葉のこと、考え出すとキリがないくらいです。しかしその時がくればおかげさまで何とか問題も無く過ごすことが出来ました。もともと言葉や習慣が違うのですから多少の行き違いが発生することはしょうがないことですね。ただそのときに何らかのコミュニケーションさえ取れば大丈夫のようでした。リチャードはいろいろイギリスでのことを積極的に話してくれました。御両親のことや奥さんのこと子供さんのこと、また弟さんがおられること、それに愛犬がいること。あと仕事のことで、エリザベス女王の警護についたことがあるという事や、あちらの普通の警官はピストルをもたないことなどを教えてくれました。そこで一番気になる質問をしました。それは元ダイアナ妃についてです。この質問に関しては残念ながら正式な報道どおりの回答しかしてもらえませんでした。そこでダイアナ妃のことを好きでしたかという質問をしました。しかしこの質問に関しては彼の立場を考えてコメントを差し控えた方が良さそうです。彼が面白い人だったことはラッキーでしたし、いろいろな楽しい思い出が出来ました。今回いろんな意味で勉強にもなりましたし、この機会を与えてくださった皆様に感謝致します。有難うございました。



「BBQ の約束」

北尾 隆明

今回初の GSE プログラムにおきましてルーシーを 3 日間お預かりいたしました。以前、青少年プログラム交換でベルギーのアストリッドの 4 ヶ月のファミリーを経験していましたので、今回は 3 日間ということもあり特に困ったことはありませんでした。ルーシーは非常に日本が好きで、今回一番美味しかったのは「スキヤキ」2 番目は「ヤキソバ&オコノミヤキ」その次に「テンプラ」と嬉しそうなスマイルで言ってくれたのが印象的で。全くかさばらず、その日から自然にまるで親戚の家に来たように馴染んでくれて助かりました。ステイ中は出身地のサマーセットの写真をを見せてくれたり、お土産の交換をしたりして、特に金色のジャパニーズ・ファンは喜んでくれました。たった 3 日間でしたがまた日本に来るときは我が家に滞在して BBQ をしようと約束し、ルーシーもサマーセットに是非来て、私の家に滞在し BBQ をしようと言ってくれ、イギリスが気持ち的に近くなったような気になり、期待していた以上に GSE プログラムは素晴らしい事業であると実感いたしました。
We had a good time very much.



「ホストファミリーから一言」

篠原 孝弘

イギリスからやって来る GSE チームのリーダー、スチュワートさんは身長が 190cm と聞いて、家にそんなデカイ布団はないと家内中頭を抱えて悩んだ日のことを懐かしく思い出しています。私の思い付きで（妻は一応反対したのですが）敷布団を縦に 2 枚重ねて特大の布団を用意しました。娘もこれを見て、「格好が悪い」と反対したのですが、そこは家長である私の一言「これでえ〜ワ！」に、呆れたのか、我が家の女性たちはこの妙に長い布団に 3 日間も文句も言わずに眠ったスチュワートに「イギリス紳士」を感じたようでした。我が家の事前に感じていた不安は、この布団騒動のおかげでスッカリ肩の力も抜けたのか、彼にも打ち解けた雰囲気でもホームステイを楽しんでもらえたようです。私の片言英語もなかなかのもので、ビール片手に「飲みニケーション」を楽しみました。娘は「そんな無茶なことで、よ〜通じてるなあ」と言いながらも、傍で辞書を引ながら結構楽しそうに付き合ってくれていました。沢山話した中でも印象的だったのは（間違っていないかもしれませんが）彼の奥様は裁判官だそうです。「この話をすると皆さんは、私のことより奥さんのほうに興味を持つので困ります。」と言いながらも、奥様の話を嬉しそうにされていたことを思い出します。

私はクラブの GSE 委員長の立場でしたから、準備をし始めたのは去年の 11 月でした。年が明けたら、あっという間に春が来て、受け入れた 1 週間も超特急で過ぎてしまいました。あれから 1 ヶ月が経とうとしています。彼らが残してくれた数え切れないほどの楽しい思い出と、GSE プログラムを通じて得た多くの新しい友人達に、今は感謝の気持ちでいっぱいです。ロータリークラブの国際奉仕活動にご協力頂きました皆様に改めて感謝いたしますと共に、このような素晴らしい機会を与えて頂きましたロータリークラブの一員であることに誇りを感じております。有難うございました。



「ホストファミリーから一言」

西村 良信

GSE のホストファミリーとして我が家にはトーマス・ケース君を受け入れさせて戴きました。29歳の独身男性で公認会計士の彼は、なかなかの美男子で礼儀も正しく良い青年でした。今回のGSEチームメンバーと最初に出会ったのは初日の夜のホストファミリーとの食事会でした。トーマス以外の他のメンバーもみんな気さくな人達でビールをどんどんお代わりしながら、苦手だと言っていた刺身にもトライしたり、豆腐を美味しいと言ってパクパク食べたり賑やかな食事会となりました。彼らはカラオケが大好きで二次会ではイングリッシュナンバーのオンパレードになりました。賑やかにその夜は終え、本当なら翌日から3泊トーマスを受け入れ予定だったのですが、今回トーマスは他の予定が入り我が家では1泊だけの受け入れになりました。英語も片言しか喋れないのにホストファミリーを受けた私共家族は1泊になった事をホッとして喜んで良いのか・・・、少し拍子抜けしたような微妙な気持ちでしたが、1回限りの朝食に洋風・和風どちらでも食べられる様に準備したり、部屋の片付けをしたりとチョットしたイベント気分楽しめた事は事実です。何はともあれ、全体のプログラムへの参加も含めてGSEチームの英国人さん達と一緒に一週間を楽しめた事は大変有意義でした。

大きなトラブルや事故も無く無事にプログラムを終えた今、キメ細やかな計画を立ててクラブのみんなを引っ張って下さった篠原実行委員長に感謝し敬意を表します



R.I.D2650研究グループ交換プログラム実施年表1

年次	西暦	ガバナー	G.S.E委員会	派・受	相手地区	団 長	団 員
昭和 46～47	71～72	野崎 貫一	不破 治	受入	D.640 デトロイト	ヒューアーチャー 三浦総一郎	ケネスM.ゲッツ、トマスG.ゴードン、ジョンC.クレーズjr、 トーマスF.オコーナー、ディヴィッドA.ウィルソン、 佐々木紘之、清水寿一、今阪 尚、藤原郁三、 覚前行成
47～48	73～73	田中 豊	竹上藤一郎	派遣			
48～49	73～74	小田 成就		／			
49～50	74～75	佐藤 裕治	酒井 哲	受入	D.676 テネシー	Pat Canal 酒井 哲	Wayne Gensemer, Tommy Rag Creasy, Michael Wyane, Mike Jean, John Reed 大江法城、木谷克宏、滝山敏郎、岩井正臣、 惣宇利紀男
50～51	75～76	千 宗室	三浦総一郎	派遣			
51～52	76～77	足立 義雄		／			
52～53	77～78	山口 善造	山口藤兵衛	派遣	D.563 ネブラスカ	小野 修 Monty Charles	新道弘之、松尾秀行、兼定和寛、植田純一、 空閑信勝 Weymouth, Arlen Scott Gangwith, Gary Lee Garnick, Patrick J. Mallog, James Michale Meisner, Michael Joseph Taft
53～54	78～79	杉山 嘉一	絹川 浩	受入			
54～55	79～80	久津見 専		／			
55～56	80～81	邊辺 彌蔵		／			
56～57	81～82	川島 春雄		／			
57～58	82～83	堀場 雅夫	牧 直次	派遣	D.596 ミネソタ	成田 龍雄 Roland D. Wilsey	堀田良里、小椋、正木 清、宮田 実、 小幡義次、原川 満 Mark.W.Tanning, Paul A. Forgeberg, Donald Lagoon, Thomas L. Reding, Tim K. Sehnert
58～59	83～84	財津 晃	成田 龍雄	受入			
59～60	84～85	羽根 實		／			
60～61	85～86	増田 房二	牧 直次	派遣	D.596 サンフランシスコ	前島 健治 Grogory C. Dyer	那須田文与、飯沼武彦、新延清、 寺井誠一、村田三千夫 Bruce Wick, Stuart Peterson, Robert M. Schlosser, Davit L. Murphy, Lawrence Tan
61～62	86～87	佐々木勝順	牧 直次	受入			
62～63	87～88	小谷 隆一	牧 直次	派遣	D.596 アラスカ	前島 健治 Steve Yoshida	上野吉弘、伊達 朗、二宮 彰、須山敏行、 伊藤 博 Joel Gay, Chris Gianotti, Bill Osborne, Lee Post, Tim Ryan
63～64	88～89	細田 精一	牧 直次	受入			
平成 1～2	89～90	津田佐兵衛	前島 健治	派遣 受入	D.528 ロサンゼルス	安川 昱 Ron Wong	荒川史朗、熊谷浩一、松浦正義、苗村淑子、 吉田祐子 Peter M. Guyer, Daniel Chagolla, Eric Sawyer, Larry Sidney, John Tylor
2～3	90～91	中野 重宏	前島 健治	派遣 受入			
3～4	91～92	西村治次郎	前島 健治	派遣 受入	D.9500 オーストラリア アデレード	奥本 裕昭 ウェイン・ジャクソン	松田光夫、竹内一志、吉川幸子、 長谷川ゆか、古尾国弘 マーガレット・ハービー、ハザービター、 テニス・ホワイティング、ピーター・リバーズ、 ブラッドレイ・ファイファー

R.I.D2650研究グループ交換プログラム実施年表2

年 次	西 暦	ガバナー	G.S.E委員会	派・受	相手地区	団 長	団 員
4～5	92～93	林 一彦	前島 健治	派遣 受入	D.1860 ドイツ ハイデルベルク	徳田 定弘 Hanes J. Baldauf	伊藤辰司、池田律子、高橋英子、松本かつら、 隅田憲孝 Christina Buch, Karl Jost, Michel Moltgen、 Jurgen Rautert, Andrea Schwark
5～6	93～94	本田 茂	徳田 定弘	派遣 受入	D.3460 台湾 台中	黄 書璋 沈 炎鐘	芦谷美奈子、因幡真佐巳、飯田智子、酒井克子 林 平烘、呉 維棟、王 媚美、張 郁琦
6～7	94～95	二橋 貞雄	徳田 定弘	派遣 受入	D.1670 フランス リール	エドワード・ダニエル・ミラー Michei Traisnel	堀井正光、佐々木美由紀、増田尚男、藪内美加 Franck Bertuzzi, Oliver Butel、 Jean-Francois Teneul, Stephane Hachette
7～8	95～96	坂部 慶夫	淡島 洋	派遣 受入	D.4570 ブラジル ブラジリア	森 努 Pedr Augusto Musa Juliao	和田欣也、竹原知子、木本 実、沖田伸江 Dislaine Dos Reis Junqueira Elizabeth Concalves Do Amaral、 Leomardo guerra De Resendes Guedes、 Fernando Antonio Lyrio Silva
8～9	96～97	(足高 普) 中野 重宏	淡島 洋	派遣 受入	D.9710 オーストラリア キャンベル	八木 春樹 Devid Graham	松浦啓之、長坂浩史、吉村仁志、富永純代 Kevin Stephenes, Marise Ingold、 Joanna Campbell, Christpher Cooper
9～10	97～98	山田 三郎	松本 昇	派遣 受入	D.1390 フィンランド ヘルシンキ	淡島 洋 Heikki Tammissalo	鈴木忠司、常田信一、出口草子、楨村久子 Petri Roininen, Jouni Vantaala、 Jukka-Pekka Haapanen, Sari Hämäläinen
10～11	98～99	宮崎 茂和	松本 昇	派遣 受入	D.1470 デンマーク コペンハーゲン	田中 文夫 Finn Jacobsen	石原みさ子、林家祐子、松井直子、 田中秀康、越智基嗣 Finn, Steen, Thomas, Chritian, Helle, Matte
11～12	99～00	大日方弘明	八木 春樹	派遣 受入	D.7350 アメリカ ペンシルベニア	松本 昇 Ronald Keyser	磯野真知子、鵜飼知子、桐山佳久、久内敏克 Harri Jaakola, Jennifer Nachamkin、 Launa Kowalczyk, Maece Pancio
12～13	00～01	山崎 時雄	佐野 貞夫	派遣 受入	D.1390 フィンランド	佐野 貞夫 Axel Cedercreutz	村角智恵、三好弘美恵、桜井正寛、西村 徹 Harri Jaakkola, Rami Toivonen、 Satu Hanninen, Saara Paljakka
13～14	01～02	西村 二郎	佐野 貞夫	派遣 受入	D.6910 アメリカ ジョージア	正村 嘉規 Von Starkey	品川 勉、今西正樹、大山由城、栃山和誉 Bill Jones, Mary lou Respass、 Satu Mullins, Terris Thomas
14～15	02～03	岡村 吾郎	木村 憲一	派遣 受入	D.6080 アメリカ ミズーリ	八木 春樹 Ron Hammel	杉本直人、高楠直樹、藤原恵子 Lori Willamson, Susan Griffith、 Matt Reiske, Tom O' Connor
15～16	03～04	福井 正典	木村 憲一	派遣 受入	D.9680 オーストラリア シドニー	坂本 克也 Graham Spong Faicd	柳沢 豊、井上寛泰、稗方攝子、小畑真由美 Debra McKenzie, Kelli Ponting、 Seema Khatri, Peter Quirk
16～17	04～05	神谷 保男	木村 憲一	派遣 受入	D.1850	Peter Möller	Antje Bresnisk, Heike Hansjürgens、 Gerd Hackmöller, Ansgan Sherp
17～18	05～06	大久保 昇	荒木 一寿	派遣 受入	D.1850 ドイツ ブレーメン	田中 文夫	賀川夕子、津田浩伸、東川景子、森井 裕
18～19	06～07	平井 義久	山本 和秀	派遣 受入	D.1200 イギリス ウェールズ	山本 和秀	木村美保子、塚本淑未、苗村由香里 Stewart Cursley, Richard Kelvey, Thomas Case Luci Hortop, Emma Dance

R.I.D.2650 地区 G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄①

年次：96～97（H8～9）

交換地区：D2650 ⇄ D9710(オーストラリアーキャンベラ)					
ガバナー：中野 重宏 GSE委員長：淡島 洋 派遣団長：八木 春樹					
受入：1997.3.14～4.25・・・派遣：1997.3.10～4.24					
来訪団員	David Graham	Kevin Stephens	Marise Ingold	Joanna Campbll	Christopher Cooper
1997年3月21日～3月28日					
ホストクラブ	勝山R/C	会長：鳥山 清	幹事：和田 欽次郎	国際奉仕委員長：中村 敬司	
ホスト会員	深谷 桂一	畔川 一	辻 哲雄	松村 孝夫	中村 敬治
1997年3月28日～4月4日					
ホストクラブ	長浜R/C	会長：吉村喜孝	幹事：高山 節二	国際奉仕委員長：平山 正	
ホスト会員	平山 正	鈴木 健市	渡邊 富良	立見 光夫	笹原 俊昭
1997年4月4日～4月11日					
ホストクラブ	京都洛北R/C	会長：西村 昭光	幹事：藤井 征	国際奉仕委員長：山本 六之	
ホスト会員	山本 六之	橋本 恵	今小路 寛真	森田 郁雄	二本柳 賢司
1997年4月11日～4月18日					
ホストクラブ	宇治鳳凰R/C	会長：樋口 善康	幹事：堀井 長太郎	国際奉仕委員長：岩滝 捨雄	
ホスト会員	小永井 征也	照喜名 康行	岩井 智	橋内 憲次	通用類 亮太郎
1997年4月18日～4月24日					
ホストクラブ	桜井R/C	会長：稲田 勝人	幹事：池田 利一	国際奉仕委員長：西垣 隆司	
ホスト会員	稲田 勝人	堀井 考司	南 明	赤崎 正佳	中野 利一

派遣団員及び主な訪問先	
96年3月10日～4月24日	
松浦 啓之	長坂 浩史
吉村 仁志	富永 純代
キャンベラ ベリーグリフィンR/C ラザーグレイン ボンパールR/C ショールヘイブン市 カウラ・リートン 他	

年次：97～98（H9～10）

交換地区：D2650 ⇄ D1390(フィンランドーヘルシンキ)					
ガバナー：山田 三郎 GSE委員長：松本 昇 派遣団長：淡島 洋					
受入：1998.3.28～4.30・・・派遣：1998.5.12～6.22					
来訪団員	Heikki Tammissalo	Sari Hamalainen	Jouni Vantaara	Petri Roininen	Jukka Pekka Haapanen
1998年3月28日～4月2日					
ホストクラブ	亀岡R/C	会長：大川 勝彦	幹事：松山 茂	国際奉仕委員長：出口 文宮	
ホスト会員	出口 文宮	高橋 一二三	長野 烈士	大川 勝	中川 康久
1998年4月2日～4月8日					
ホストクラブ	京都西北R/C	会長：石川 公三	幹事：牧野 敬一	国際奉仕委員長：山本 正道	
ホスト会員	木戸 靖	牧野 敬一	石川 公三	藤井 真一	森定 秀夫
1998年4月8日～4月14日					
ホストクラブ	若狹R/C	会長：池田 満州治	幹事：石野 保	国際奉仕委員長：山根 登美夫	
ホスト会員	川村 次繁	浜詰 二夫	桜本 良夫	中野 貴耀	池田 満州治
1998年4月14日～4月20日					
ホストクラブ	水口R/C	会長：大橋 淳一	幹事：岡村 俊男	国際奉仕委員長：井用 哲	
ホスト会員	大橋 淳一	岡村 俊男	小川 三代治	小西 由一	野田 卓治
1998年4月22日～4月30日					
ホストクラブ	大和高田R/C	会長：松倉 俊之	幹事：甲村 侑男	国際奉仕委員長：杉田 博	
ホスト会員	村島 靖一郎	楢原 勉	甲村 侑男	杉田 博	栢岡 進

派遣団員及び主な訪問先	
97年5月12日～6月22日	
鈴木 忠司	常田 信一
出口 草子	榎村 久子
ヘルシンキ ラハティ・ランミR/C タンペレ・ピルカラ トイヤラ・トゥルク・ ユバスキラ・ロバニエミ ヘイノラ北R/C 他	

(☆詳細は年度別報告書参照。)

R.I.D.2650 地区 G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄②

年次：99～00（H11～12）

交換地区：D2650 ⇄ D97350(米国・ペンシルバニア)					
ガバナー：大日方弘明 GSE委員長：八木 春樹 派遣団長：松本 昇					
受入：2000.3.21～4.26・・・派遣：200.4.13～5.26					
来訪団員	Ronald Keyser	Launa Kowalczyk	Eric Lindberg	Marce Pancio	Jennifer Nachamkin
2000年3月21日～3月30日					
ホストクラブ	檀原中央R/C	会長：川俣 海淳	幹事：原田 昌和	国際奉仕委員長：斉藤 宗男	
ホスト会員	川俣 海淳	小川 丈夫	脇本 弘文	中西 知	原田 昌和
2000年3月30日～4月5日					
ホストクラブ	京都洛東R/C	会長：吉原 英男	幹事：北村 光男	国際奉仕委員長：村上 好夫	
ホスト会員	吉原 英男	小仲 善朗	北村 光夫	柴田 篤男	梶原 章二
2000年4月6日～4月13日					
ホストクラブ	長浜東R/C	会長：松波 征文	幹事：福永 勝彦	国際奉仕委員長：松居 繁隆	
ホスト会員	松波 征文	大塚敬一郎	村田 武夫	宮崎 豊	白川 弘泰
2000年4月13日～4月20日					
ホストクラブ	三国R/C	会長：斉藤 愛夫	幹事：津谷 隆治	国際奉仕委員長：半澤 政丈	
ホスト会員	伊藤 和美	島崎 省三	徳照 貴寿	半澤 政丈	大嶋 一英
2000年4月20日～4月25日					
ホストクラブ	京都西山R/C	会長：伊東 一寿	幹事：家原 利一良	国際奉仕委員長：田中 善行	
ホスト会員	中野 種樹	津田 定明	井澤 豊	伊東 一寿	木下 泰一

派遣団員及び主な訪問先	
00年4月13日～5月26日	
磯野真知子	鷗飼 知子
桐山 佳久	久内 敏克
HagerstownR/C Keyser R/C Washington FC Chambersburg Altoona R/C Huntingdon R/C 他	

年次：00～01（H12～13）

交換地区：D2650 ⇄ D1390(フィンランドヘルシンキ)					
ガバナー：山崎 時雄 GSE委員長：佐野 貞夫 派遣団長：佐野 貞夫					
受入：2001.3.29～4.30・・・派遣：2001.5.2～6.3					
来訪団員	Axel Cedercreutz	Harri Jaakkola	Rami Toivonen	Saara Paljakka	Satu Hanninen
2001年3月29日～4月3日					
ホストクラブ	京都桂川R/C	会長：浅野 辰治	幹事：吉田 修	国際奉仕委員長：千田 適	
ホスト会員	出射 靖生	安田 勝	吉田 修	末長 寛	稲掛 英男
2001年4月4日～4月11日					
ホストクラブ	京都田辺R/C	会長：藤本 益弘	幹事：田井 甫	国際奉仕委員長：前田 利明	
ホスト会員	岡本 良夫	北川 良	織田 敏嗣	木村 良樹	田中安太郎
2001年4月11日～4月17日					
ホストクラブ	五個荘能登川R/C	会長：布施 征男	幹事：中村 康夫	国際奉仕委員長：北川 敬造	
ホスト会員	本庄 康孝	本庄 康孝	本庄 康孝	田口 憲治	田口 重次
	西崎 徹心	布施 征男	北川 敬造	上林 庄造	中村 康夫
			中川 浩		
2001年4月17日～4月23日					
ホストクラブ	武生府中R/C	会長：大野 武治	幹事：杉田俊一郎	国際奉仕委員長：角 裕幸	
ホスト会員	坂野 宇内	大野 武治	垣内 勝美	岩堀 南郎	辻 里明
2001年4月23日～4月28日					
ホストクラブ	生駒R/C	会長：宿 敏幸	幹事：谷口 清	国際奉仕委員長：安藤 武徳	
ホスト会員	宿 敏幸	坂本 成彦	庄司 悦治	中野総一郎	久保 昌城

派遣団員及び主な訪問先	
01年5月2日～6月3日	
村角 智恵	三好弘美恵
桜井 正寛	西村 徹
Lampäälä -Havas Nokia R/C Tampere-Lielahiti R/C Tampere-Pyynikki R/C Ylöjävi R/C pihtipudas R/C Jyväskylä R/C Mänttä・Heinola R/C Heinola R/C Lahti-Mukkla R/C 他	

(☆詳細は年度別報告書参照。)

R.I.D.2650 地区 G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄③

年次：01～02 (H13～14)

交換地区：D2650 ⇄ D6910(米国・ジョージア)					
ガバナー：西村二郎 GSE委員長：佐野貞夫 派遣団長：正村嘉規					
受入：2002.4.3～5.1・・・派遣：2002.4.6～5.12					
来訪団員	Von Starkey	Bill Jones	Mary lou-Respesa	Stan Mullins	Terris Thomas
2002年4月3日～4月9日					
ホストクラブ	大和郡山R/C	会長：中屋 三司	幹事：尾崎 勝彦	国際奉仕委員長：稲垣 利一	
ホスト会員	中屋 三司	松岡 秀晋	稲垣 利一	今西 康彰	岡島三千夫
2002年4月9日～4月14日					
ホストクラブ	丸岡R/C	会長：西野 清志	幹事：前田 章	国際奉仕委員長：下田 重道	
ホスト会員	西野 清志	山岸 功	北 昭弘	高嶋 勝美	下田 重道
2002年4月15日～4月20日					
ホストクラブ	びわ湖八幡R/C	会長：川嶋 正昭	幹事：野瀬宇一郎	国際奉仕委員長：西川 竣治	
ホスト会員	井上 為	野瀬宇一郎	苗村 政光	北村公史郎	福永 長次
2002年4月13日～4月20日					
ホストクラブ	京都中R/C	会長：橋本 史朗	幹事：斉藤 栄一	国際奉仕委員長：北ノ坊賢二	
ホスト会員	橋本 史朗	中井 昭典	肥田 白豊	北ノ坊賢二	山田 豊文
2002年4月25日～4月30日					
ホストクラブ	京都城陽R/C	会長：杉山 実	幹事：尾関弥之助		
ホスト会員	加藤 達成	中坊 健一	鹿野 秀雄	山田 雅久	森澤 格

派遣団員及び主な訪問先	
02年4月6日～5月12日	
品川 勉	今西 正樹
栃山 和誉	大山 由城
Atlanta,Covington Rome,Gainesvill Athens,Pnama, Florida(地区大会) Snellvill, Peechtree-Corners,N.Y San Francisco	

年次：02～03 (H14～15)

交換地区：D2650 ⇄ D6080(米国・ミズーリー)					
ガバナー：岡村吾郎 GSE委員長：木村憲一 派遣団長：八木春樹					
受入：2003.3.21～4.21・・・派遣：2003.8.15～9.15					
来訪団員	Ron-hammel	Lori-Williamson	Susan-Griffith	Matt-Reiske	Tom-O'connor
2003年3月21日～3月27日					
ホストクラブ	奈良大宮R/C	会長：楠下 重郎	幹事：井上 政行	国際奉仕委員長：成田 積	
ホスト会員	潮田 悦男	藤井 正勝	鈴木 浩之	楠木 重樹	徳矢和土郎
2003年3月27日～4月1日					
ホストクラブ	亀岡中央R/C	会長：森 啓一	幹事：古前 極	国際奉仕委員長：廣瀬 春輝	
ホスト会員	森 啓一	木戸 伸承	古前 極	安川 隆三	廣瀬 春輝
2003年4月1日～4月7日					
ホストクラブ	京都紫竹R/C	会長：清水 南	幹事：細見 正博	国際奉仕委員長：明石 好蔵	
ホスト会員	細見 正博	成瀬日出夫	明石 好蔵	上田 基嗣	裕森 昭郎
2003年4月7日～4月13日					
ホストクラブ	福井西R/C	会長：林 逸男	幹事：岩崎 清次	国際奉仕委員長：石川志貴雄	
ホスト会員	林 逸男	五十嵐清人	白崎 治義	石川志喜雄	白崎 健
2003年4月14日～4月20日					
ホストクラブ	甲西西部R/C	会長：川北 清満	幹事：山元 隆彦	国際奉仕委員長：伊藤 實	
ホスト会員	川北 清満	奥村 増一	長谷川正勝	山元 隆彦	園田 英次

派遣団員及び主な訪問先	
03年8月15日～9月15日	
杉本 直人	高楠 直樹
藤原 恵子	
Kansas city, Sidalia,Jefferson City, Lake Ozark, Mountain view, Springfiels,Belton, Warrensburg,	

(☆詳細は年度別報告書参照。)

R.I.D.2650 地区 G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄④

年次：03～04 (H15～16)

交換地区：D2650 ⇄ D9680(オーストラリア・シドニー地区)					
ガバナー：福井 正典 GSE委員長：木村 憲一 派遣団長：坂本 克也					
受入：2003.10.20～11.24・・・派遣：2004.2.18～3.30					
来訪団員	Graham Spong Faicd	Debra Mckenzie	Seema Khatri Respesa	Kelli Ponting	Peter Quirk
2003年10月20日～10月27日					
ホストクラブ	奈良R/C	会長：岩崎 俊介	幹事：沢井 啓祐	国際奉仕委員長：小林 敏良	
ホスト会員	長谷川 嘉信	有馬 孝清	沢井 啓祐	松山 隆	山尾 富士雄
2003年10月27日～11月3日					
ホストクラブ	滋賀湖北R/C	会長：川合 環	幹事：川瀬 利弥	国際奉仕委員長：伊藤克美	
ホスト会員	中川 友一	土田 良夫	中村 義則	川瀬 利弥	山本 清蔵
2003年11月315日～11月9日					
ホストクラブ	鯖江北R/C	会長：進士 敏保	幹事：吉田 祥一	国際奉仕委員長：高間 孝生	
ホスト会員	進士 敏保	小山 泉	今野 利夫	加藤 団秀	酒井 優嘉
2003年11月10日～11月17日					
ホストクラブ	京都八幡R/C	会長：近藤 恭弘	幹事：山下 晴大	国際奉仕委員長：坂本 克也	
ホスト会員	吉岡 正則	辻 富治	真鍋 克治郎	畑中 清博	福井 純史
2002年11月17日～11月23日					
ホストクラブ	京都嵯峨野R/C	会長：小林 正典	幹事：中川 敏逸	国際奉仕委員長：杉本 五十洋	
ホスト会員	長谷川 善樹	森下 久治	富士森 良輔	中嶋 達治	江後 良平

派遣団員及び主な訪問先	
04年2月18日～3月30日	
井上 寛康	柳沢 豊
稗方 攝子	小畑 真由美
Sydney,blue Mountain, Manly,Canberra, Gosford, Newcastle (地区大会) Newcastle	

年次：04～06 (H16～18)

交換地区：D2650 ⇄ D1850(ドイツ・ブレーメン地区)					
(2004-05年度) ガバナー：神谷 保男 GSE委員長：木村 憲一 (受入年度) (2005-06年度) ガバナー：大久保 昇 GSE委員長：荒木 一寿 派遣団長：田中 文夫 (派遣年度)					
受入：2004.10.25～11.25・・・派遣：2006.5.15～6.15					
来訪団員	peter Möller	Antje Bresnick	Heike Hansjurgans	Gerd Hachmöller	Ansgar Scherp
受入：2004年10月25日～11月25日					
ホストクラブ	奈良東R/VC	会長：中東 弘京	幹事：北奥 雅祥	国際奉仕委員長：萩原 隆夫	
ホスト会員	中東 弘京	黒田 有紀	清水 弘志	上田 洋一	北奥 雅祥
受入：2004年10月30日～11月5日					
ホストクラブ	舞鶴R/C	会長：小西 剛	幹事：池田 正	国際奉仕委員長：喜多 栄一	
ホスト会員	小西 剛	喜多 栄一	深田 邦彦	元木 専	池田 正
受入：2004年11月6日～11月12日					
ホストクラブ	京都朱雀R/C	会長：堀 一行	幹事：佐藤 宏信	国際奉仕委員長：奥村 昇三	
ホスト会員	堀 一行	上田 昇	松林 正高	奥村 昇三	中西 康博
受入：2004年11月12日～11月18日					
ホストクラブ	福井フェニックスR/C	会長：黒川 照元	幹事：平田 好祐	国際奉仕委員長：小澤 恵三	
ホスト会員	黒川 照元	岡島 輝治	久津見 律子	早川 雅秀	平田 好祐
受入：2004年11月18日～11月24日					
ホストクラブ	大津唐橋R/C	会長：奥村 好隆	幹事：森 俊輝	国際奉仕委員長：井野 泰雄	
ホスト会員	小野 亮	磯野 靖	井野 泰雄	村田 大作	松村 和夫

派遣団員及び主な訪問先	
06年5月15日～6月16日	
賀川 夕子	津田 浩伸
東川 景子	森井 裕
Bremerhaven, Wittmund-Esens, Wilhelmshaven, Osterholz, Osnabrück, Papenburg, Bremen-Neuenlande, 上記の各R/C	

(☆詳細は年度別報告書参照。)

R.I.D.2650 地区 G.S.E.派遣・受入・ホスト年次別抄⑤

年次：06～07（H18～19）

交換地区：D2650 ⇄ D1200(イギリス)					
ガバナー：平井義久 GSE委員長：山本和秀 派遣団長：山本和秀					
受入：2007.3.25～4.22・・・派遣：2006.9.19～10.19					
来訪団員	Stewart Cursley	Richard Klvey	Thomas Case	Emma Dance	Luci Hortop
2007年3月25日～3月30日					
ホストクラブ	八日市南R/C	会長：河島 勲	幹事：北岸 孝雄	GSE委員長：藤野 潔	
ホスト会員	河島 勲	加藤 博之	奥村 武一郎	藤野 潔	山田 みを子
2007年3月30日～4月4日					
ホストクラブ	舞鶴東R/C	会長：畑 東海男	幹事：沖 泰隆		
ホスト会員	山元 勉	高橋 行雄	稲田 尚	沖 泰隆	中野 健太郎
2007年4月4日～4月10日					
ホストクラブ	王寺R/C	会長：西谷 雅孝	幹事、GSE委員長：鈴木 貴晶		
ホスト会員	岡嶋 雅司	鈴木 貴晶	森近 泰夫	西谷 雅孝	西谷 雅孝
2007年4月10日～4月16日					
ホストクラブ	福井あじさいR/C	会長：長井 眞見	幹事：大島 友治	GSE委員長：淡島 洋	
ホスト会員	長井 眞見	檀尾 輝元	片岡 道雄	武田 幸夫	淡島 洋
2007年4月16日～4月22日					
ホストクラブ	京都モーニングR/C	会長：北尾 隆明	幹事：田中 正明	GSE委員長：篠原 考弘	
ホスト会員	篠原 考弘	後藤 佳津也	西村 良信	堀場 厚	北尾 隆明

派遣団員及び主な訪問先	
06年9月19日～10月19日	
木村 美保子	塚本 淑未
苗村 由香里	
wells Yeovil West Woodspring Melcombe Regis Dorchester Portland Taunton Chippenham Bath	

(☆詳細は年度別報告書参照。)

2006～2007年度R. I. D. 2650G. S. E. 委員会名簿

(6名)

氏 名	連 絡 先	電 話・FAX
委員長 やまもと かずひで 山 本 和 秀 (京都山城R.C.)	勤 山本砂利(株) 代表取締役 619-0214 京都府相楽郡木津町木津池田36-5	TEL 0774-72-2151 FAX 0774-72-2486
	自 631-0004 奈良市登美ヶ丘2-4-7 E-mail: neighbor@kcn.jp	TEL 0742-41-2055 FAX 0742-47-5111
	(株)ハセック 代表取締役	TEL 0748-75-2411
副委員長 はせがわ まさかつ 長 谷 川 正 勝 (湖南R.C.)	勤 520-3252 滋賀県湖南市岩根678-559	FAX 0748-75-1864
	自 520-3242 滋賀県湖南市菩堤寺1492-474 E-mail:	TEL 0748-74-2056 FAX
	(株)フードマネージメント 代表取締役	TEL 0742-50-2520
委員 きたおく まさよし 北 奥 雅 祥 (奈良東R.C.)	勤 630-8441 奈良県奈良市神殿町667-1	FAX 0742-51-1726
	自 631-0044 奈良県奈良市藤ノ木台3-7-9-6 E-mail: kitaoku@kcn.ne.jp	TEL 0742-45-6589 FAX 0742-51-1726
	小西商事(株) 代表取締役社長	TEL 0773-62-4521
委員 こ に し つ よ し 小 西 剛 (舞鶴R.C.)	勤 624-0923 京都府舞鶴市字魚屋38	FAX 0773-64-4770
	自 624-0951 京都府舞鶴市字上福井975 E-mail: konishishoj@dance.ne.jp	TEL 0773-75-0902 FAX 0773-75-0902
	日本管工業(株) 代表取締役	TEL 075-221-7121
委員 おくむら しょうぞう 奥 村 昇 三 (京都朱雀R.C.)	勤 604-0846 京都市中京区押小路通烏丸西入る	FAX 075-221-7103
	自 601-1124 京都市西京区大原野上里紅葉町5-3 E-mail: okumura@nihonkan.jp	TEL 075-332-6843 FAX
	(株)ホンダリース福井 専務取締役	TEL 0776-25-3700
委員 おざわ けいぞう 小 澤 恵 三 (福井フェニックスR.C.)	勤 918-8238 福井県福井市和田3丁目720番地	FAX 0776-22-8390
	自 910-0018 福井県福井市田原2-19-27 E-mail: ozawak@hondalf.co.jp	TEL 0776-22-4778 FAX

(委員:アルファベット順)